

令和元年度国産農産物消費拡大事業のうち「和食」と
地域食文化継承推進委託事業（地域の食文化の保護・継承事業）のうち
国民の食生活における和食文化の実態調査

調査報告書（全体版）

令和2年12月

農林水産省

食料産業局 海外市場開拓・食文化課

本調査は農林水産省食料産業局海外市場開拓・食文化課からの委託を受けて、株式会社日本能率協会総合研究所が調査・報告書作成を担当した。



調査概要	_____	3
調査結果	_____	6
1. 対象者プロフィール	-----	7
2. ふだんの食生活と特別な日の食事	-----	11
3. 郷土料理について	-----	30
4. 和食および和食文化について	-----	39

調査概要

調査概要

- ・調査目的 : 和食文化に対する意識と実態を把握する
- ・調査方法 : インターネットモニターに対するWeb調査
- ・調査対象者 : 全国の20-69歳の男女
- ・対象者条件 : 特に設定はしない
- ・サンプル数 : 2,000名 (回収)
- ・サンプル割付 : 全国を9エリアに分け男女年代別の人口構成比に合わせて回収した

	男性					女性					計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
北海道	6	7	9	8	9	6	7	9	9	10	80
東北	10	12	15	14	17	9	12	14	14	17	134
関東	62	73	90	74	66	58	68	85	69	66	711
甲信越・北陸	10	11	15	13	14	9	10	14	13	15	124
中部・東海	21	24	30	24	23	18	21	28	23	24	236
近畿	27	30	39	33	32	27	30	40	34	34	326
中国	9	10	13	11	12	8	10	13	11	13	110
四国	4	5	7	6	7	4	5	7	6	7	58
九州	17	21	24	21	25	17	21	25	23	27	221
計	166	193	242	204	205	156	184	235	202	213	2,000

「住民基本台帳 平成31年」を基に算出

- ・調査実施期間 : 令和2年2月28日～3月6日

- 北海道 : 北海道
- 東北 : 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東 : 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 甲信越・北陸 : 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県
- 中部・東海 : 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- 近畿 : 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 中国 : 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 四国 : 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 九州・沖縄 : 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県



調査概要（参考：平成27年度調査）

- ・調査目的：和食文化が、家庭の食の中でどのくらい「実践」されているのか（実践度・行動）、そしてどのくらい「大事だと思う」と考えられているのか（重要度・意識）を把握し、今後の和食文化の保護・継承活動・施策立案に資する。
- ・調査方法：インターネットモニターに対するWeb調査
- ・調査対象者：全国の20-69歳の男女
- ・対象者条件：特に設定はしない
- ・サンプル数：10,235名
- ・サンプル割付：2014年（平成26年）10月1日人口推計に準じ、都道府県、性年代を割り付け
- ・調査実施期間：2015年（平成27年）10月15日～19日

調查結果

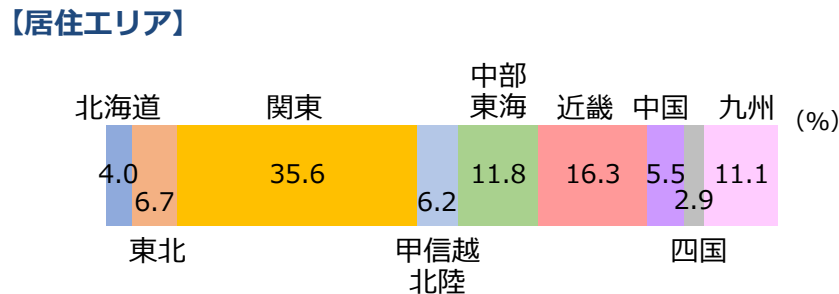
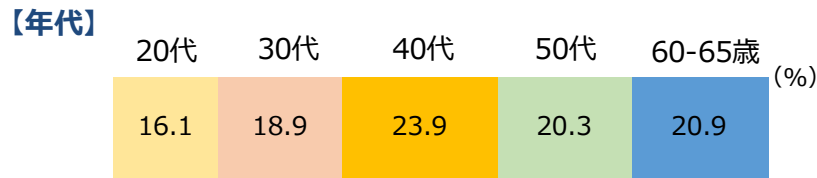
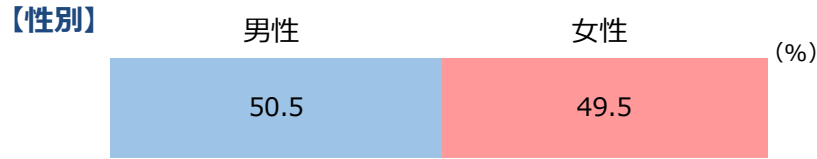
1. 対象者プロフィール

対象者プロフィール (1) 性別／年代／居住エリア

■ 全国の9エリアの男女20歳から69歳の人数を、エリア別の人口構成比に合わせて回収を行った。

- Q1. あなたの性別をお答えください。
- Q2. あなたの年齢をお答えください。
- Q3. あなたがお住まいの地域をお答えください。

(対象者：全体 n=2,000)



(人)

	男性					女性					計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
北海道	6	7	9	8	9	6	7	9	9	10	80
東北	10	12	15	14	17	9	12	14	14	17	134
関東	62	73	90	74	66	58	68	85	69	66	711
甲信越・北陸	10	11	15	13	14	9	10	14	13	15	124
中部・東海	21	24	30	24	23	18	21	28	23	24	236
近畿	27	30	39	33	32	27	30	40	34	34	326
中国	9	10	13	11	12	8	10	13	11	13	110
四国	4	5	7	6	7	4	5	7	6	7	58
九州	17	21	24	21	25	17	21	25	23	27	221
計	166	193	242	204	205	156	184	235	202	213	2,000

「住民基本台帳 平成31年」を基に算出

対象者プロフィール（2） 職業／同居家族／同居している子供

- 同居家族は、「子供と同居」は36.2%（724名）、「一人暮らし」は18.5%（370名）、「子供以外と同居」は45.3%（906名）という割合であった。

Q4. あなたご自身の、現在の職業を、お知らせください。

※現在、出産・育児休暇など長期休暇中の方は、雇用先の職業をご回答ください。 ※学生でアルバイトをされている方は、「学生」とお答えください。

Q5. 現在 あなたと同居されている方をすべて お知らせください。

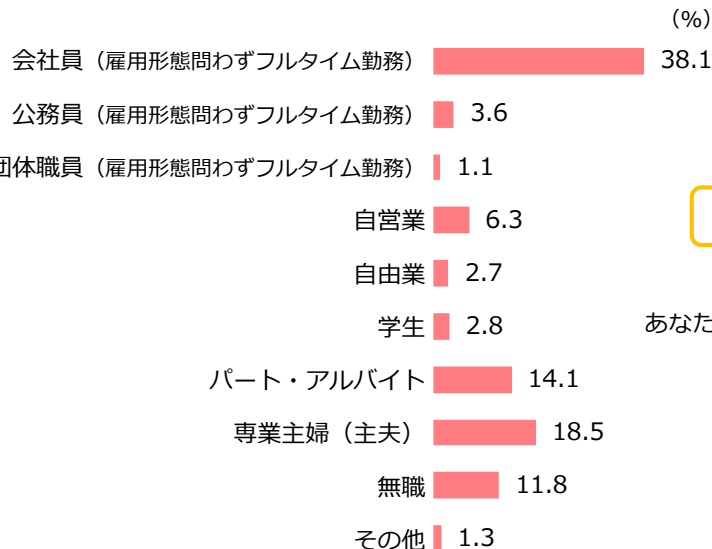
※「あなたから見た続柄」でお答えください。

Q6. 現在、あなたが同居しているお様は次のどれにあてはまりますか。

※同居しているお様子についてのみお答えください。（お孫さんは含みません）

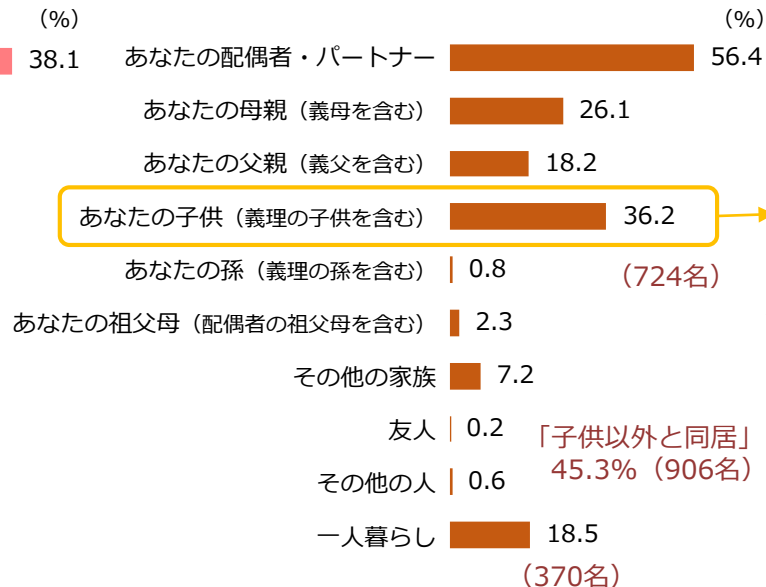
【職業】

（対象者：全体 n=2,000）



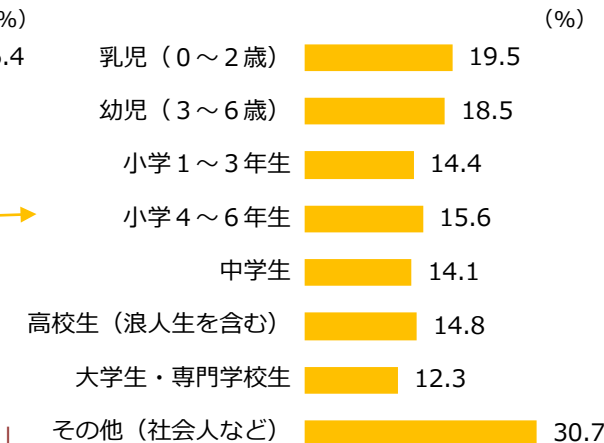
【同居家族】

（対象者：全体 n=2,000）



【同居している子供】

（対象者：子供と同居 n=724）

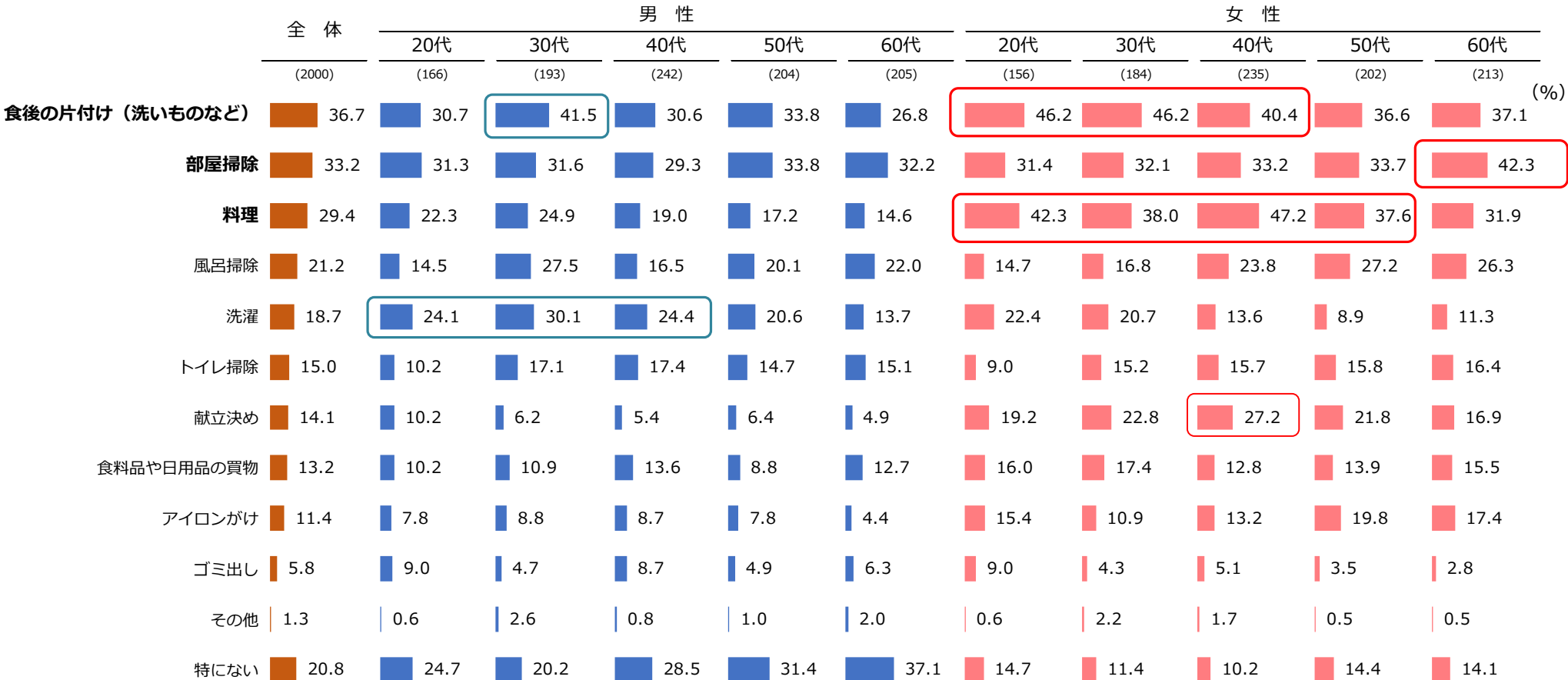


「子供以外と同居」
45.3%（906名）

特に時短したいと思う家事 「3つまで」 【性別・年代別】

- 特に時短したい家事は、全体で「食後の片づけ（洗いものなど）」が最も多く、次いで「部屋掃除」、「料理」、「風呂掃除」、「洗濯」であった。
- 「食後の片づけ（洗いものなど）」は女性20代から40代の子育て世代で高く、「部屋掃除」は女性60代で高かった。「料理」は女性20代から50代の幅広い年代で「時短意識」は高かった。

Q22. あなたが特に「時短したい」と思う家事を3つまで教えてください。



2. ふだんの食生活と特別な日の食事

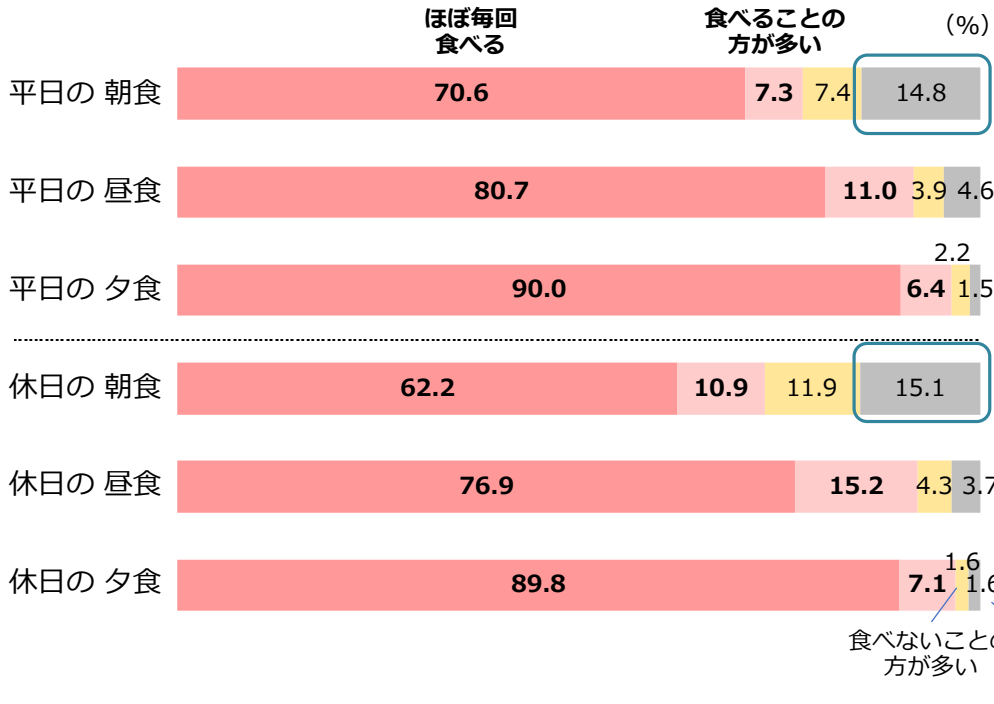
ふだんの朝食・昼食・夕食の頻度 【全体：平成27年度との比較】

- ふだんの食事頻度は、平日、休日とも「夕食」、「昼食」、「朝食」の順で高かった。「朝食をほとんど食べない」は平日、休日とも1割以上いた。
- 平成27年度との比較では、各食事とも大きな変化ではないが、「朝食をほとんど食べない」割合がやや高まった。

Q7. あなたはふだん、朝食・昼食・夕食をどのくらいの頻度で食べていますか。
平日・休日それぞれの朝食・昼食・夕食について、以下のうち、もっとも近いものをお選びください。

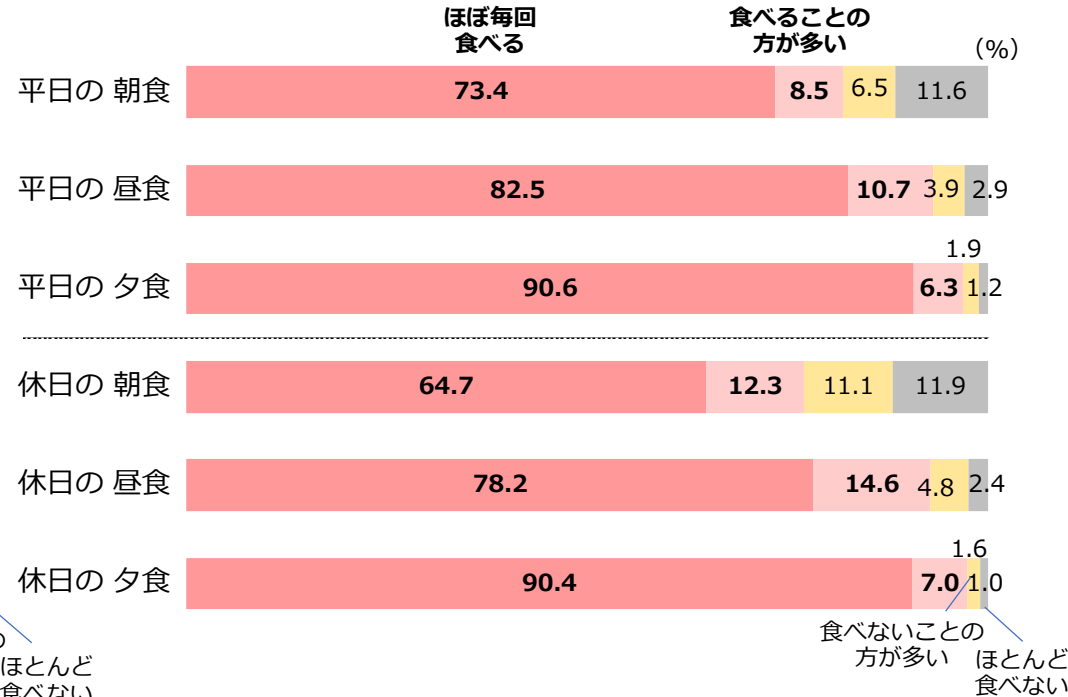
【令和元年度】

(対象者：全体 n=2,000)



【平成27年度】

(対象者：全体 n=10,235)



自宅での料理頻度 【性別・年代別：平成27年度との比較】

- 自宅での料理頻度「ほぼ毎日」は全体では4割強、女性は「ほぼ毎日」が6割を超え、「週に3-5日」を合わせると約8割であった。男性は「ほぼ毎日」は2割強、「週に1日以上（計）」は半数以上であった。
- 平成27年度と比較すると、女性は「ほぼ毎日」の割合が低下しており、料理頻度はやや低下した。一方の男性は、平成27年度は「週1日以上（計）」が約4割だったのが今回は5割以上と料理頻度は高まった。男性を年代別に見ると、20代・30代の若年層の料理頻度の高まりが顕著であった。

Q9. あなたはふだん、どれくらいの頻度で、ご自宅で料理をつくりますか。

※ここでいう「料理」とは、米をとぐ、野菜を切る、肉を焼くなど、「食材に何らかの手を加えること」と考えてお答えください。

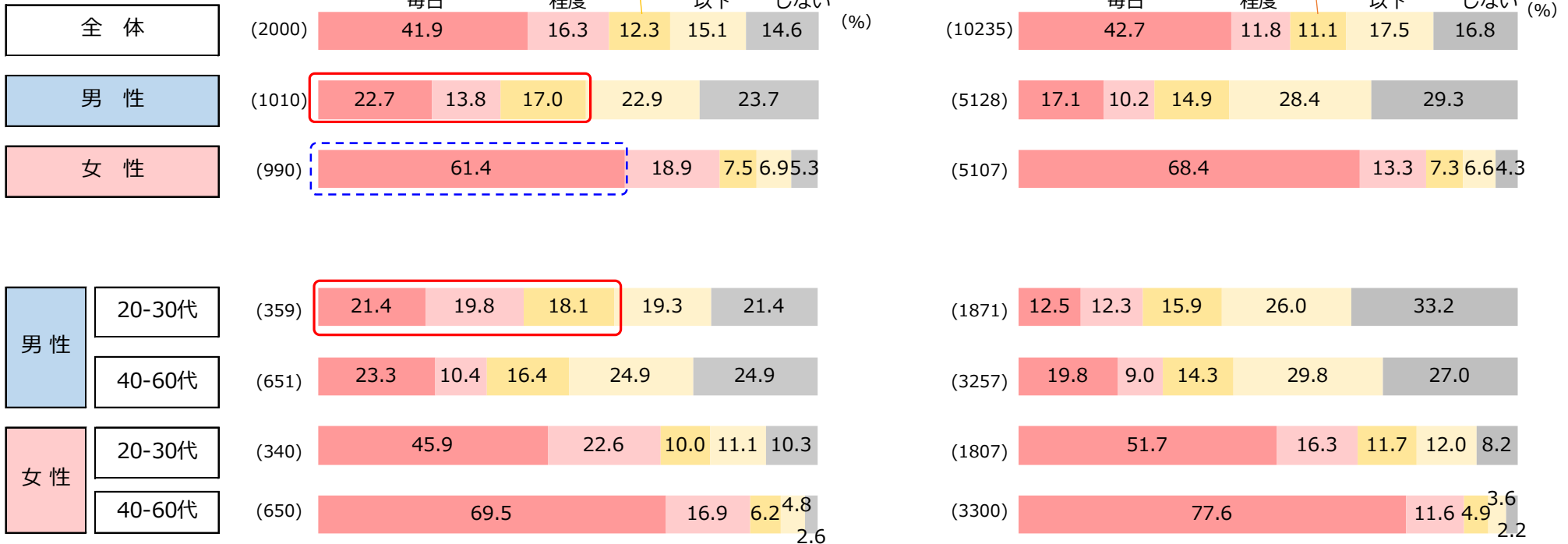
※カップラーメンや冷凍食品のように、お湯を注いだり電子レンジで温めるだけで食べられるものは、料理には含めません。

【令和元年度】

週に1日
程度

【平成27年度】

週に1日
程度

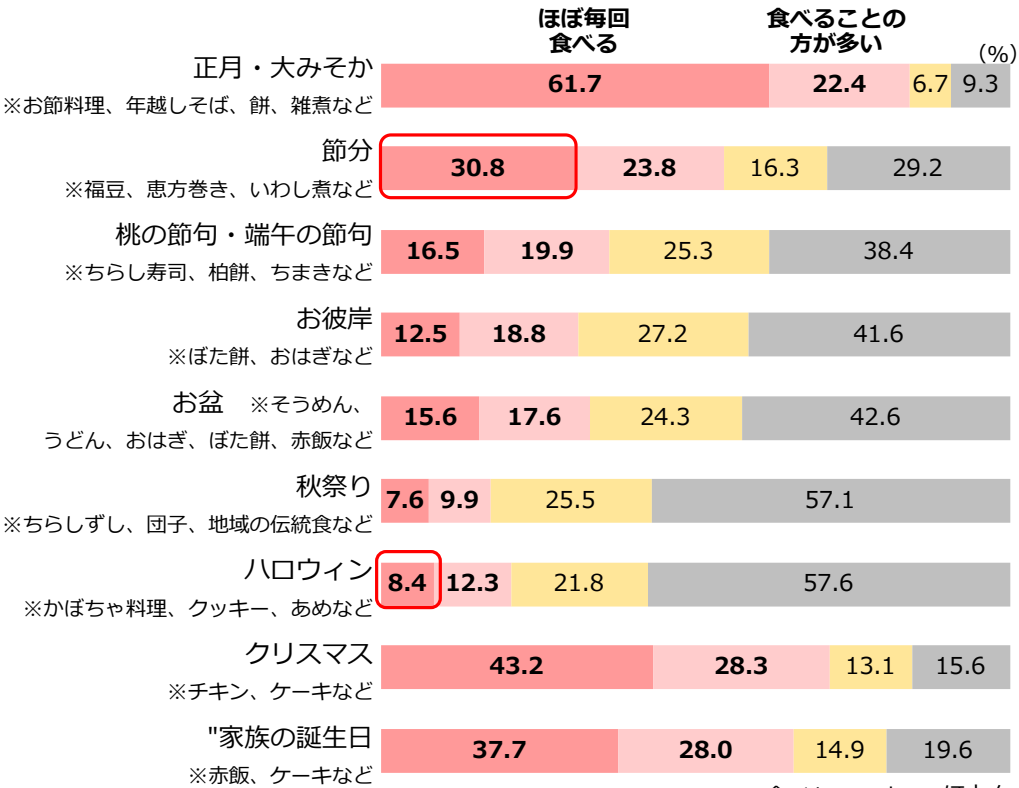


季節の行事など特別な日に関連した食べものの食事頻度 【全体：平成27年度との比較】

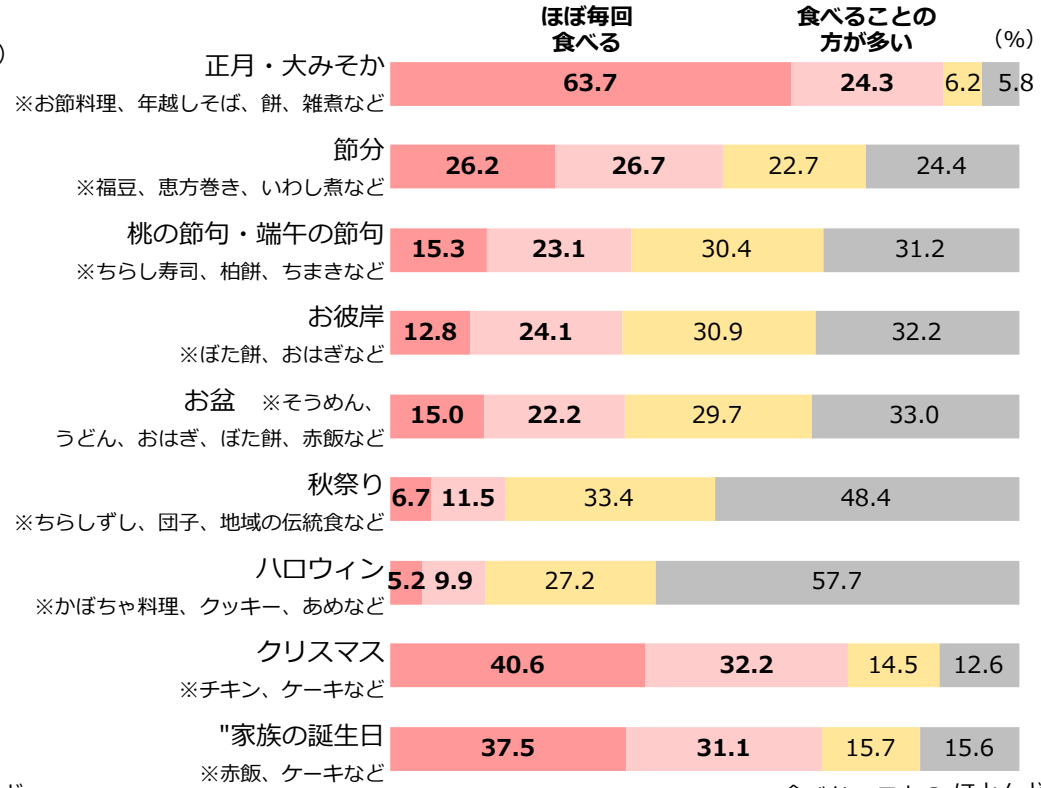
- 季節の行事など特別な日に関連した食べものの食事頻度を「ほぼ毎回食べる」で比較すると、『正月・大みそか』が最も多く、その他では『クリスマス』、『家族の誕生日』、『節分』の順で高かった。頻度が低いのは『秋祭り』と『ハロウィン』で、「ほとんど食べない」が半数以上であった。
- 平成27年度と比較すると、『桃の節句』、『お彼岸』、『お盆』、『秋祭り』は「ほとんど食べない」の割合が高まった。一方で、『節分』と『ハロウィン』の「ほぼ毎回食べる」の割合はやや高まった。

Q10. あなたは、季節の行事など特別な日に、その行事に関連した食べものを食べていますか。
下記にあげるそれぞれの行事について、以下のうち、もっとも近いものをお選びください。

【令和元年度】 (対象者：全体 n=2,000)



【平成27年度】 (対象者：全体 n=10,235)



食べないことの方が多い ほとんど食べない

食べないことの方が多い ほとんど食べない

季節の行事など特別な日に関連した食べものの食事頻度 【同居家族別】

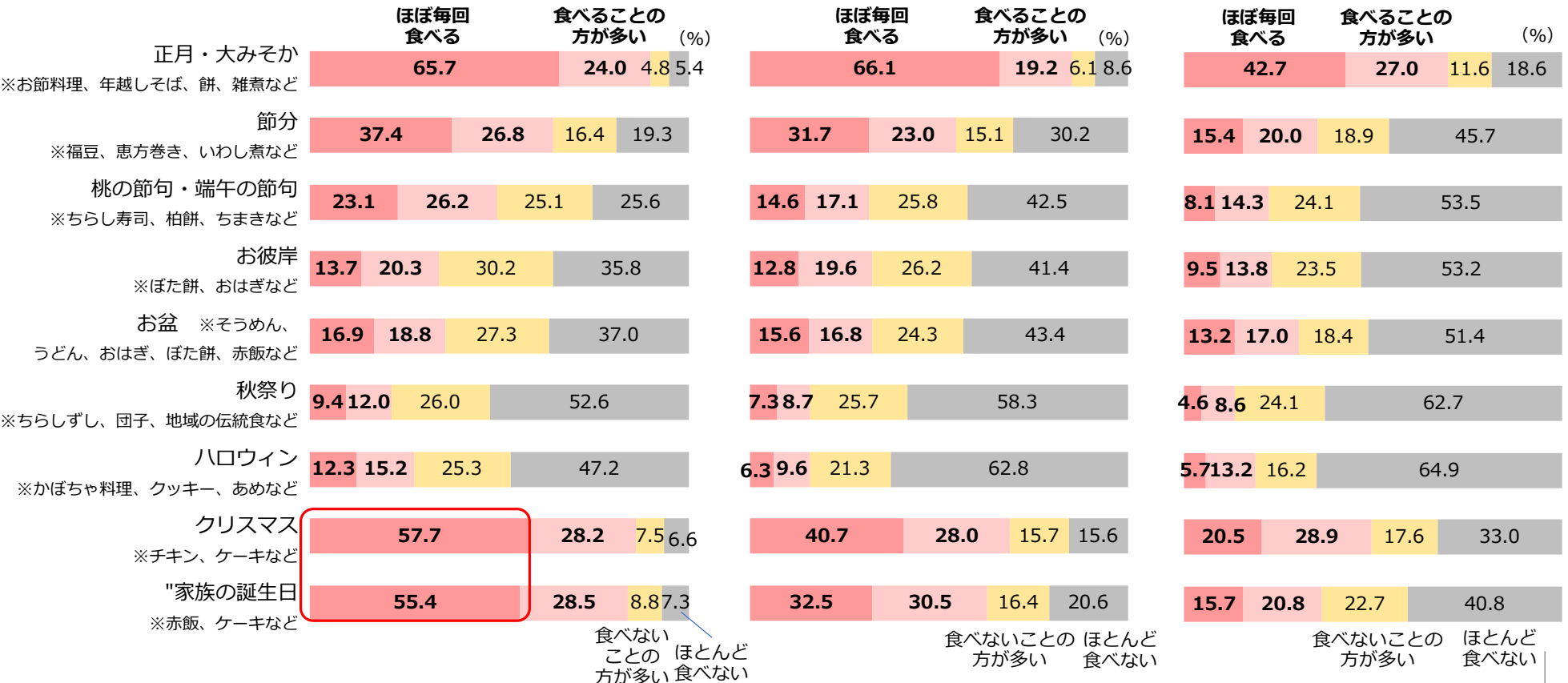
■ 同居の家族状況別では、【同居家族あり（子供と同居、子供以外と同居の両方）】は【一人暮らし】と比較してすべての季節の行事や特別な日に関連した食事を食べている割合は高かった。【子供と同居】と【子供以外と同居】の比較では、『クリスマス』、『家族の誕生日』、『桃の節句・端午の節句』は【子供と同居】の方が食事頻度は高いが、その他は大きな差はなかった。

Q10. あなたは、季節の行事など特別な日に、その行事に関連した食べものを食べていますか。
下記にあげるそれぞれの行事について、以下のうち、もっとも近いものをお選びください。

【子供と同居】（対象者：n=724）

【子供以外と同居】（対象者：n=906）

【一人暮らし】（対象者：n=370）



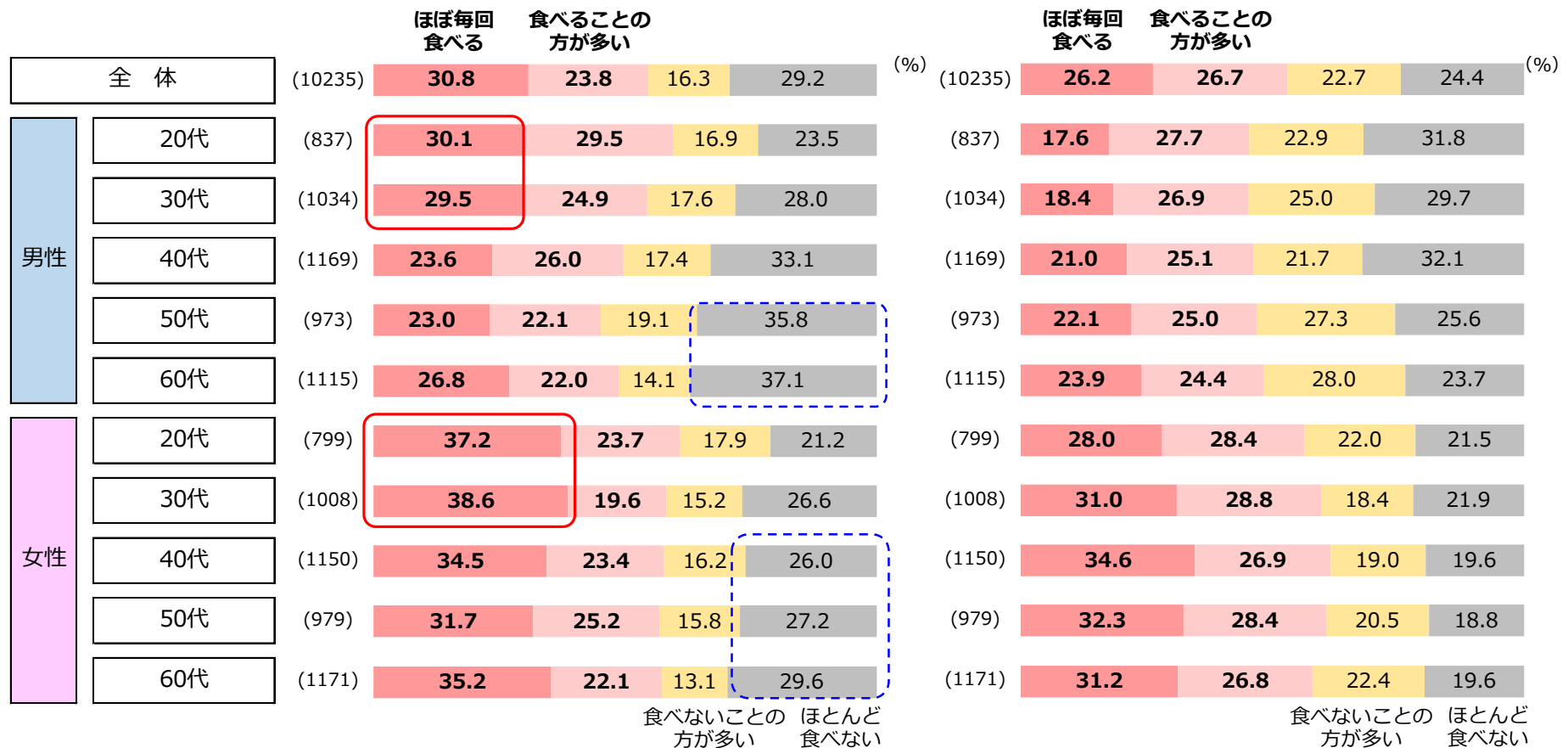
季節の行事など特別な日に関連した食べもの「節分」の食事頻度 【性別・年代別：平成27年度との比較】

- 『節分』に関連した食べものの食事頻度を性別・年代別に平成27年度と比較すると、男女とも20代と30代の若年層で「ほぼ毎回食べる」の割合は大きく高まったが、一方で男性は50代以上、女性は40代以上で「ほとんど食べない」が多くなっており、年代による差は見られた。

Q10. あなたは、季節の行事など特別な日に、その行事に関連した食べものを食べていますか。

【令和元年度】

【平成27年度】



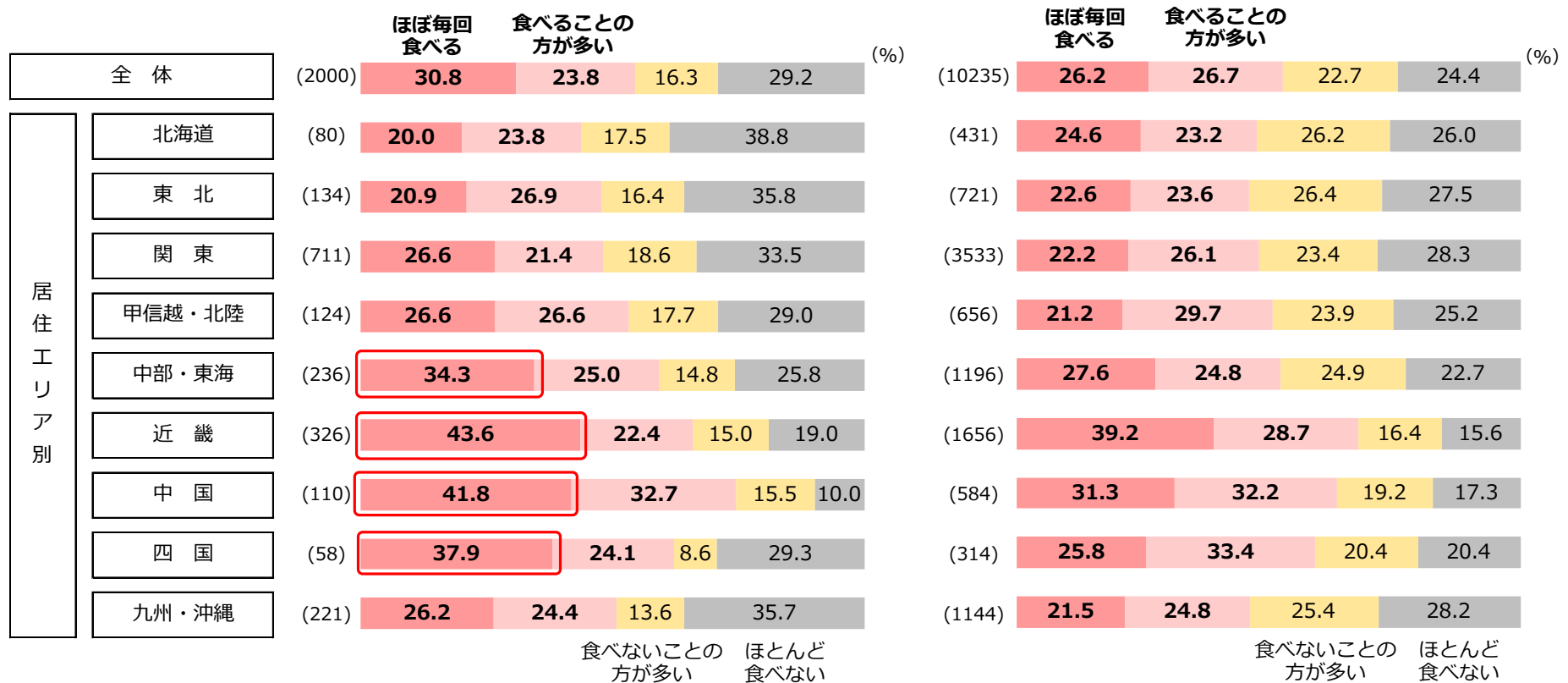
季節の行事など特別な日に関連した食べもの「節分」の食事頻度 【居住エリア別：平成27年度との比較】

- 『節分』に関連した食べものの食事頻度を居住エリア別にみると、『近畿』、『中国』、『四国』、『中部・東海』で「ほぼ毎回食べる」の割合は高く、それらのエリアは平成27年度からさらに高まった。

Q10. あなたは、季節の行事など特別な日に、その行事に関連した食べものを食べていますか。

【令和元年度】

【平成27年度】

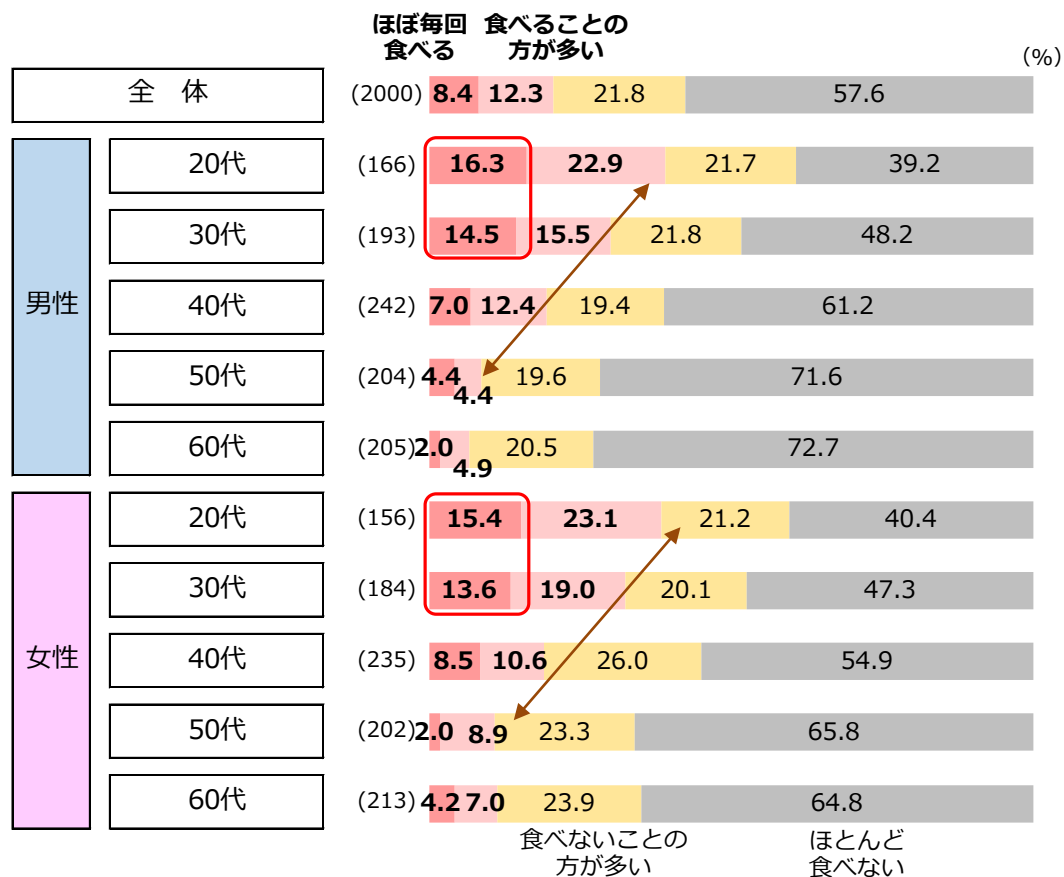


季節の行事など特別な日に関連した食べもの「ハロウィン」の食事頻度 【性別・年代別：平成27年度との比較】

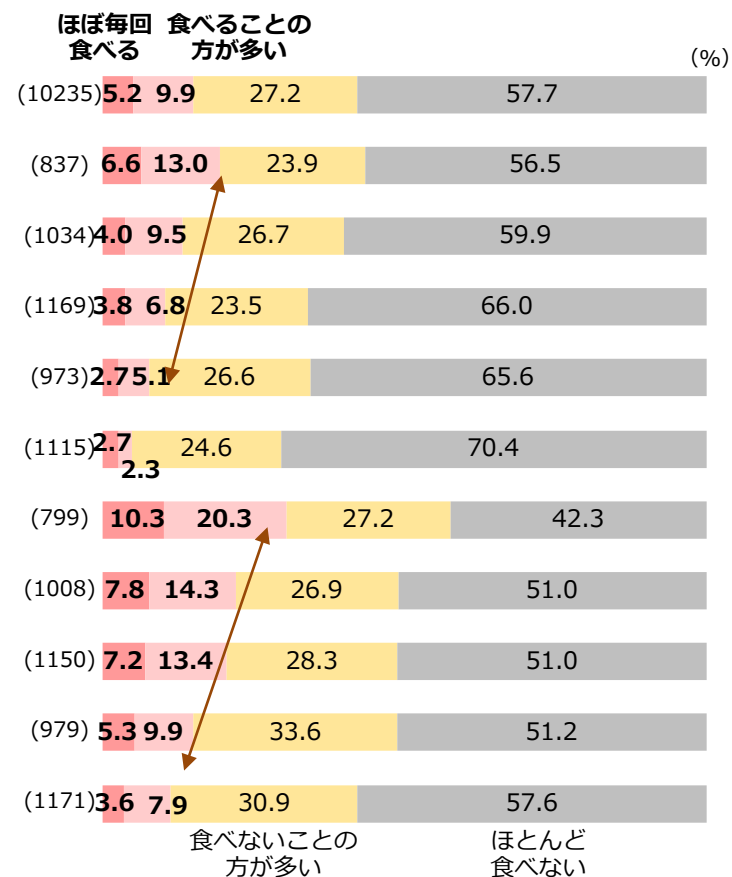
- 『ハロウィン』に関連した食べものを「ほぼ毎回食べる」は若い世代ほど高く、平成27年度と比較してその傾向はより強くなった。

Q10. あなたは、季節の行事など特別な日に、その行事に関連した食べものを食べていますか。

【令和元年度】



【平成27年度】



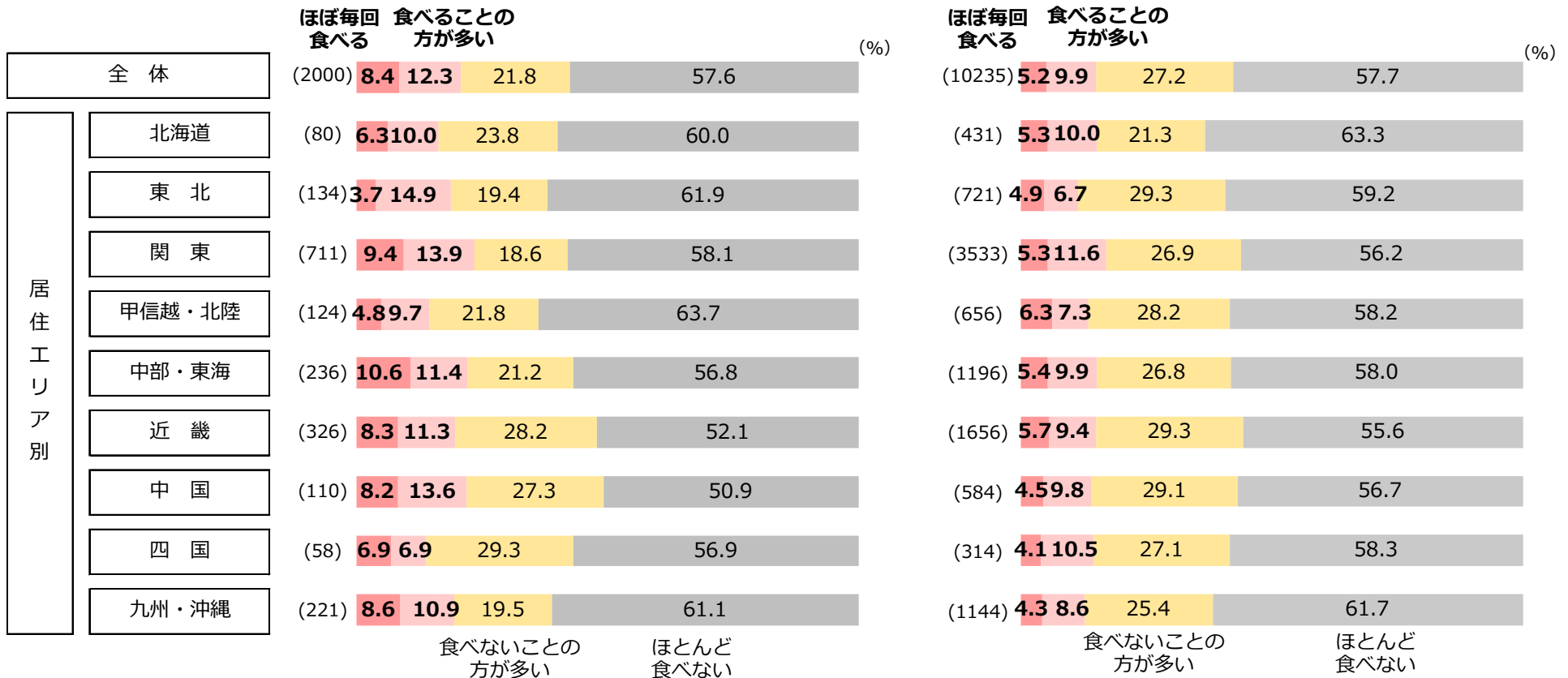
季節の行事など特別な日に関連した食べもの「ハロウィン」の食事頻度 【居住エリア別：平成27年度との比較】

- 『ハロウィン』に関連した食べものの食事頻度の「ほぼ毎回食べる」は、居住エリア別に大きな差はないが、『関東』、『中部・東海』でやや高かった。
- 平成27年度との比較では、ほとんどエリアで「ほぼ毎回食べる」はやや高まったが、『東北』と『甲信越・北陸』ではやや低下した。

Q10. あなたは、季節の行事など特別な日に、その行事に関連した食べものを食べていますか。

【令和元年度】

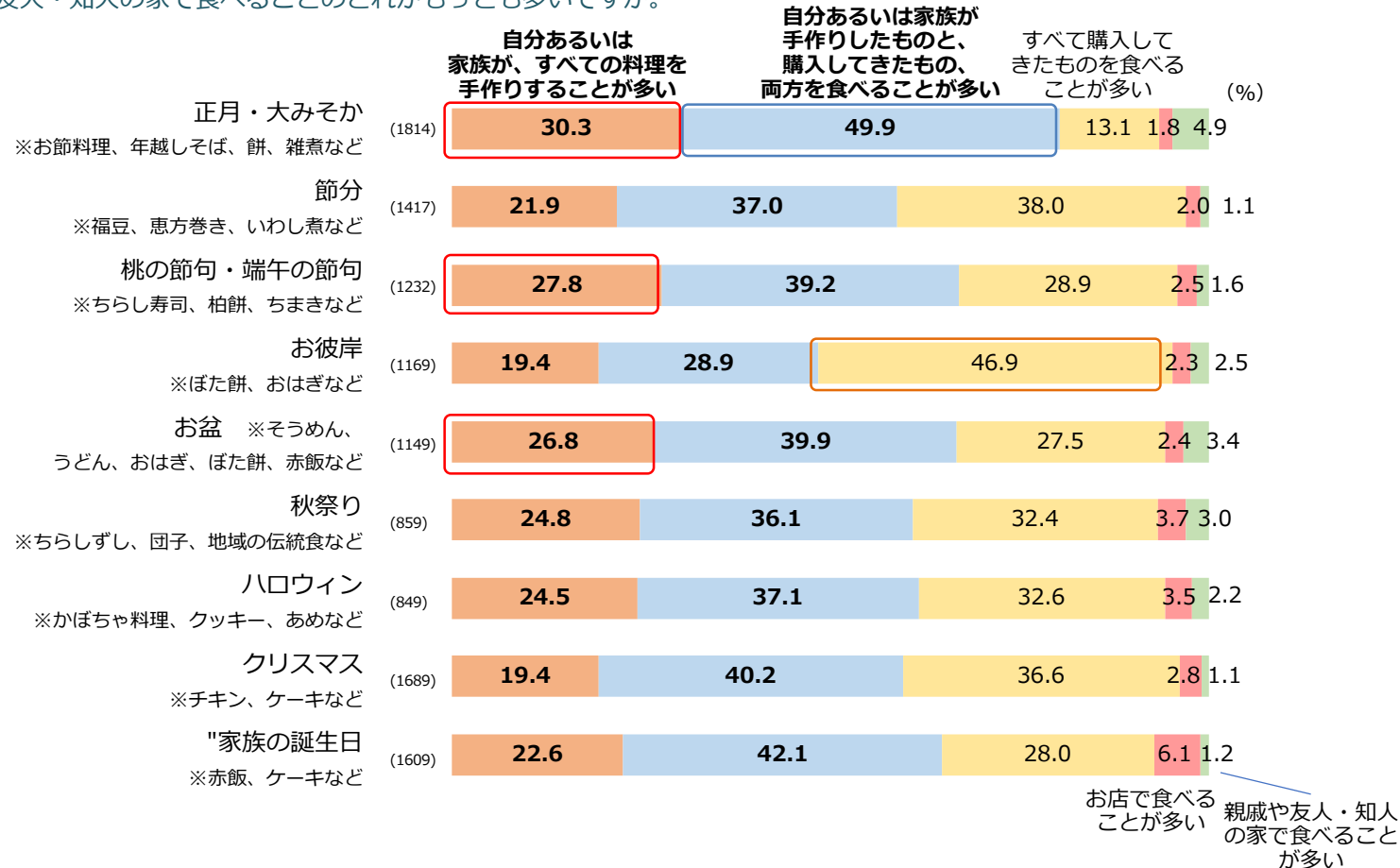
【平成27年度】



季節の行事など特別な日に関連した食べもの「手作り、購入など」 【各季節の行事など特別な日の食べものを食べた回答者】

■ 季節の行事など特別な日に関連した食べものを「自分、家族がすべて手作りすることが多い」は『正月・大みそか』、『桃の節句・端午の節句』、『お盆』の順で多かった。『正月・大みそか』は「自分や家族が手作りのものと、購入してきたもの両方を食べる人が多い」が半数と高いのも特徴で、唯一「すべて購入したものを食べる」の割合が1割台と少ない。一方で『お彼岸』は「すべて購入したものを食べる」が最も高かった。

Q11. あなたが、季節の行事など特別な日に食べる、その行事に関連した食べものについて、自分あるいは家族が、すべての料理を手作りすることと自分あるいは家族が手作りのものと、購入してきたもの、両方を食べること、すべて購入してきたものを食べること、お店で食べること、親戚や友人・知人の家で食べることのどれがもっとも多いですか。



季節の行事など特別な日に関連した食べものについて重要なこと

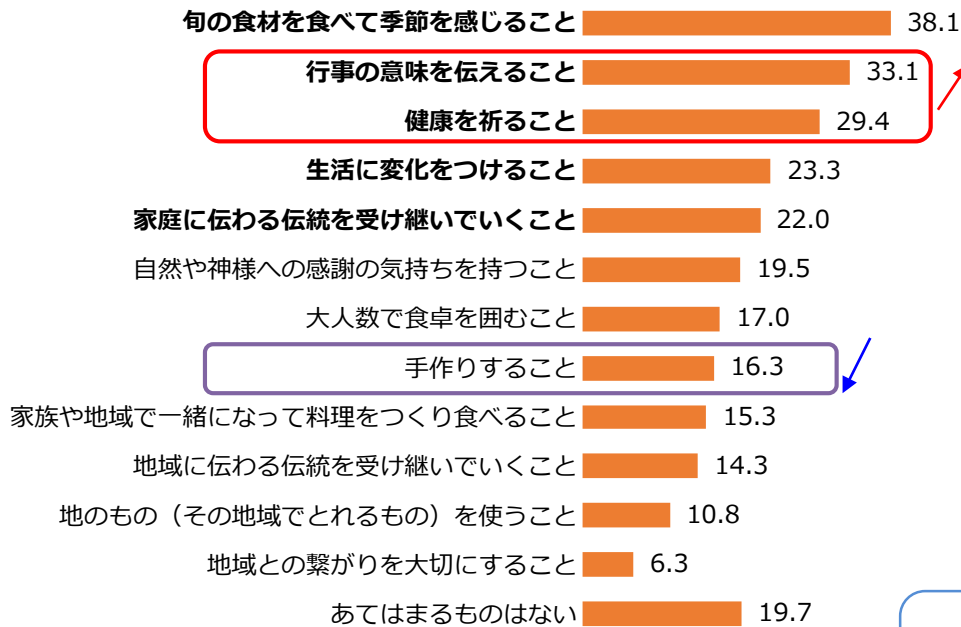
【全体：平成27年度との比較】

- 季節の行事など特別な日に関連した食べものについて重要なことは、全体で「旬の食材を食べて季節を感じること」が最も高く、以下「行事の意味を伝えること」、「健康を祈ること」、「生活に変化をつけること」の順であった。
- 平成27年度との比較では、「行事の意味を伝えること」と「健康を祈ること」は高まったが、「手作りすること」は大きく低下した。

Q12. あなたが、季節の行事など特別な日に食べる、その行事に関連した食べものについて、重要だと思うことは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。

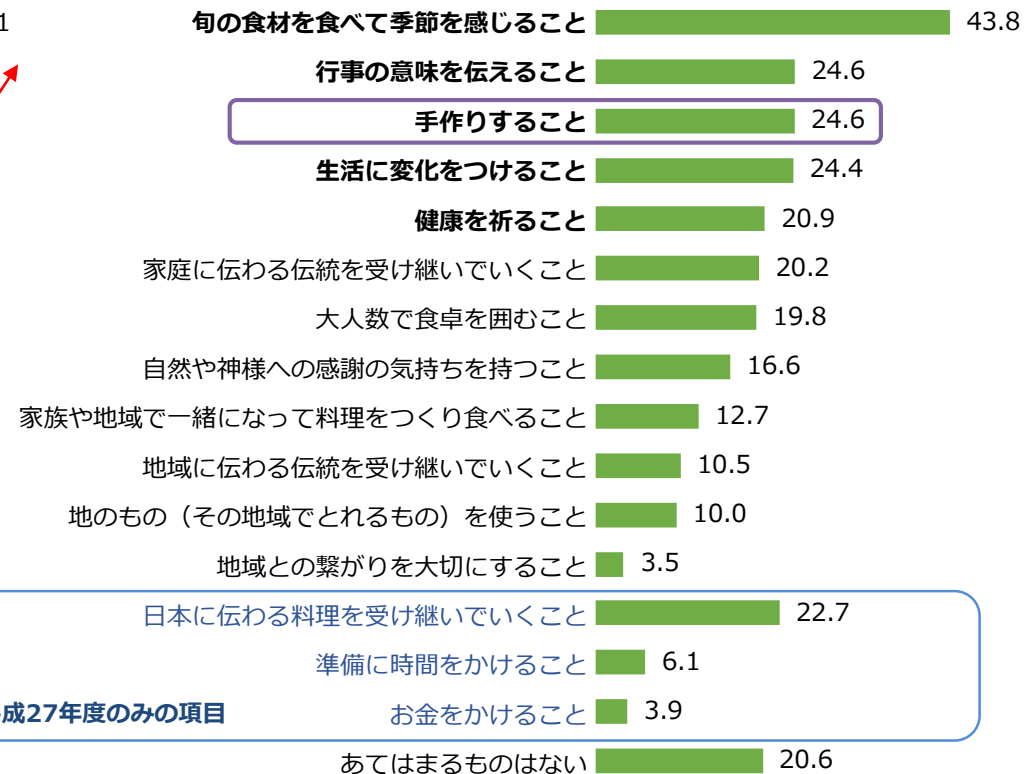
【令和元年度】

(対象者：全体 n=2,000) (%)



【平成27年度】

(対象者：全体 n=10,235) (%)

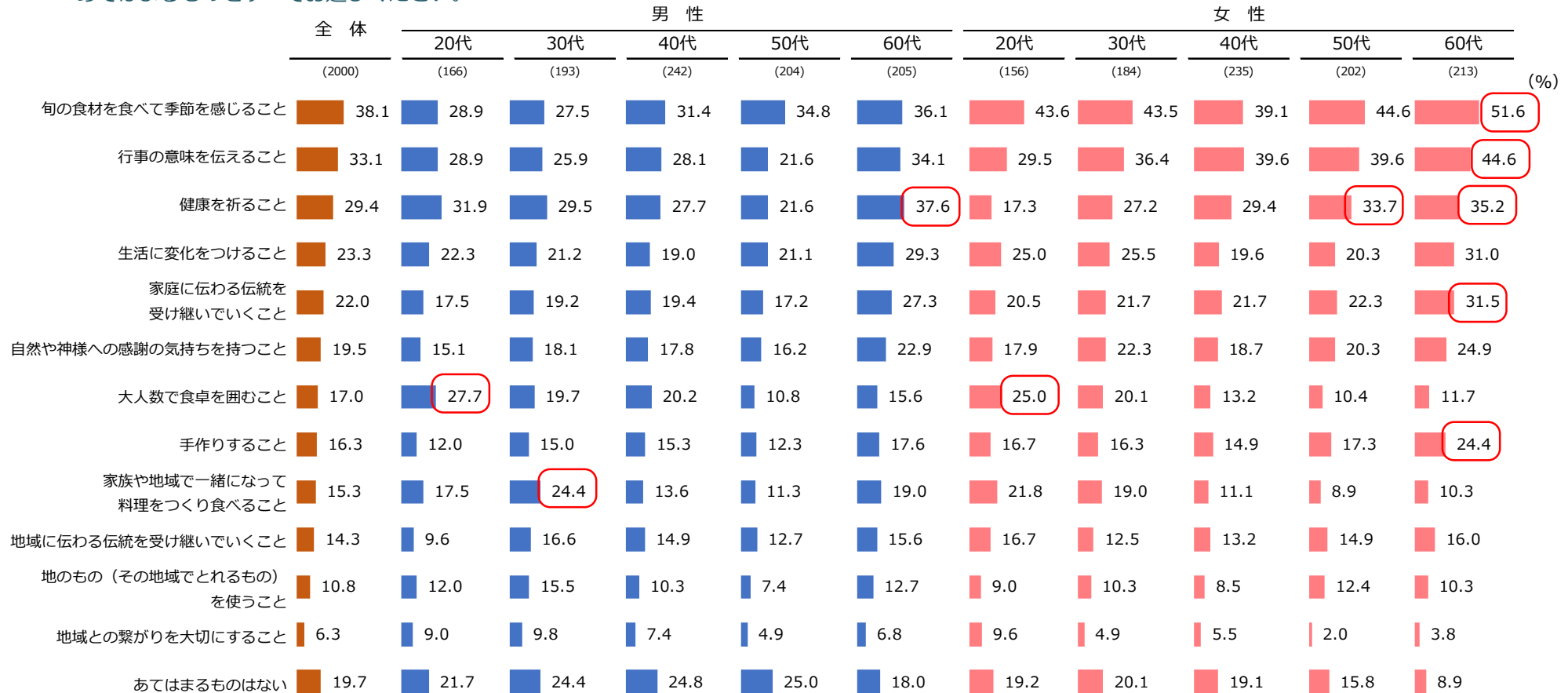


平成27年度のみ項目

季節の行事など特別な日に関連した食べものについて重要なこと 【性別・年代別】

■ 季節の行事など特別な日に関連した食べものについて重要なこととして多くあがった「旬の食材を食べて季節を感じる」と「行事の意味を伝えること」は女性60代で特に高かった。「健康を祈ること」は男性60代、女性50代、60代で高かった。

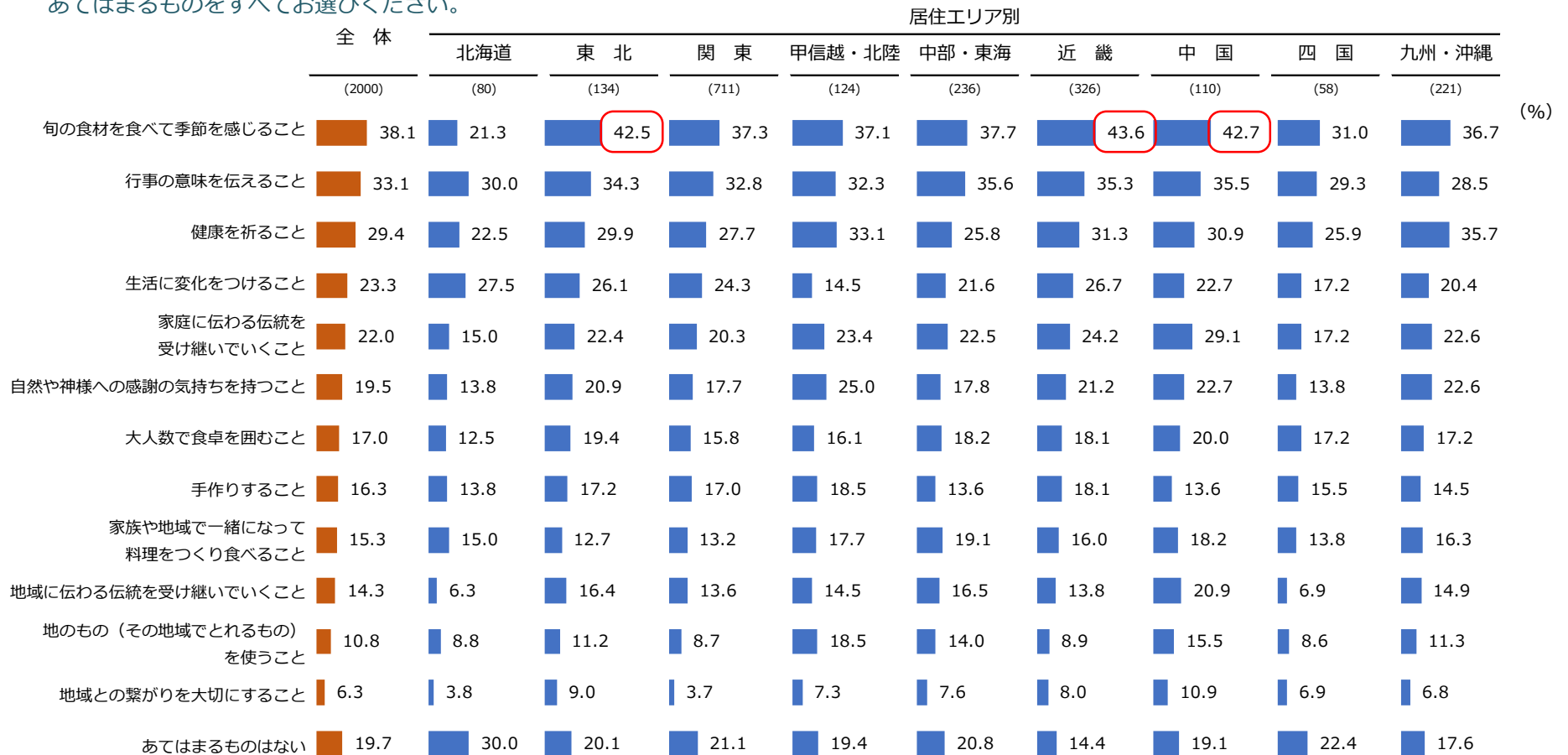
Q12. あなたが、季節の行事など特別な日に食べる、その行事に関連した食べものについて、重要だと思うことは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。



季節の行事など特別な日に関連した食べものについて重要なこと 【居住エリア別】

■ 居住エリア別では、「旬の食材を食べて季節を感じること」は『東北』、『近畿』、『中国』で他のエリアよりも高かった。

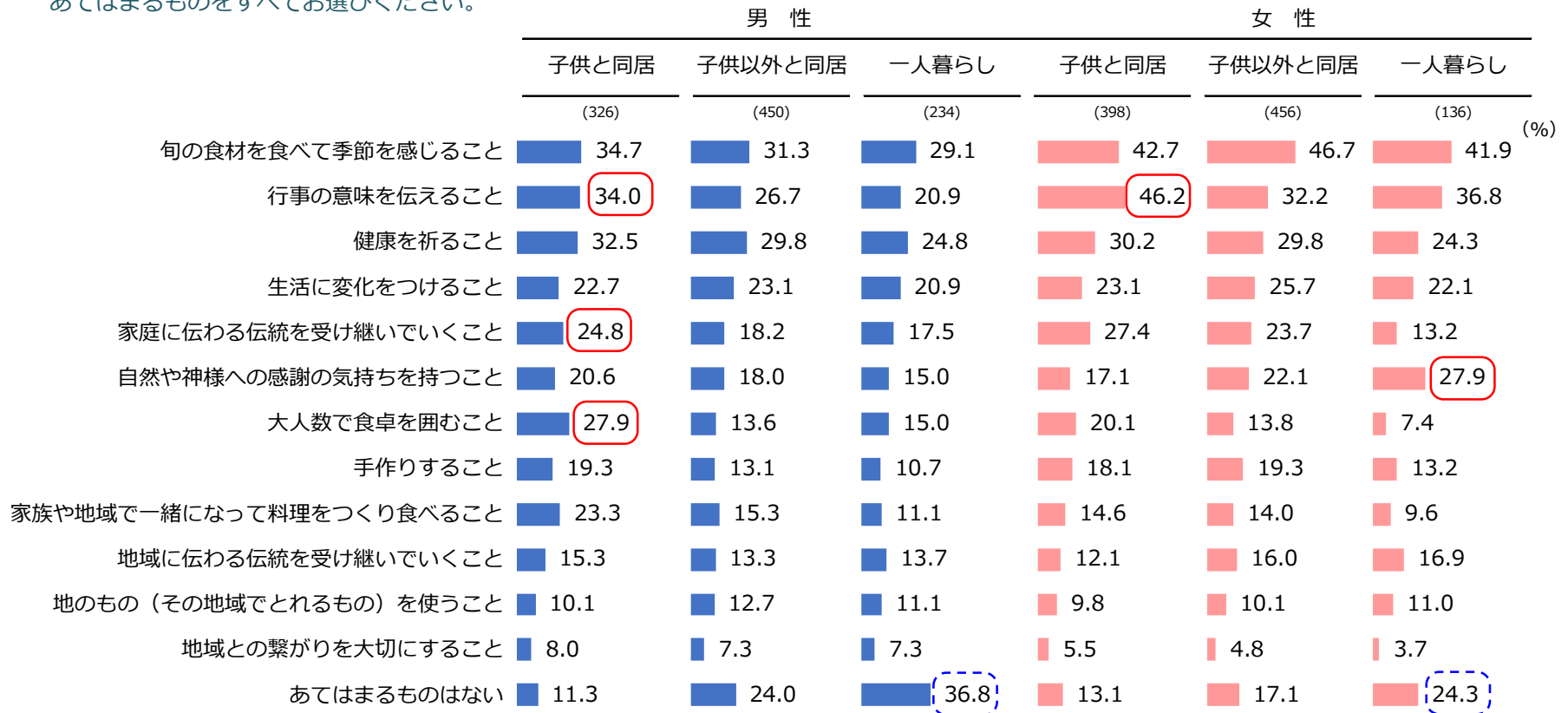
Q12. あなたが、季節の行事など特別な日に食べる、その行事に関連した食べものについて、重要だと思うことは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。



季節の行事など特別な日に関連した食べものについて重要なこと 【性別・同居家族別】

- 男女とも【子供と同居】している層は、「行事の意味を伝えること」が他の層よりも高く、特に女性で顕著だった。男性の【子供と同居】している層は、「家族に伝わる伝統を受け継ぐこと」と「大人数で食卓を囲むこと」が他の層よりも高かった。

Q12. あなたが、季節の行事など特別な日に食べる、その行事に関連した食べものについて、重要だと思うことは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。



「食べる側」の立場として、実施したこと・増やしたいこと 【全体】

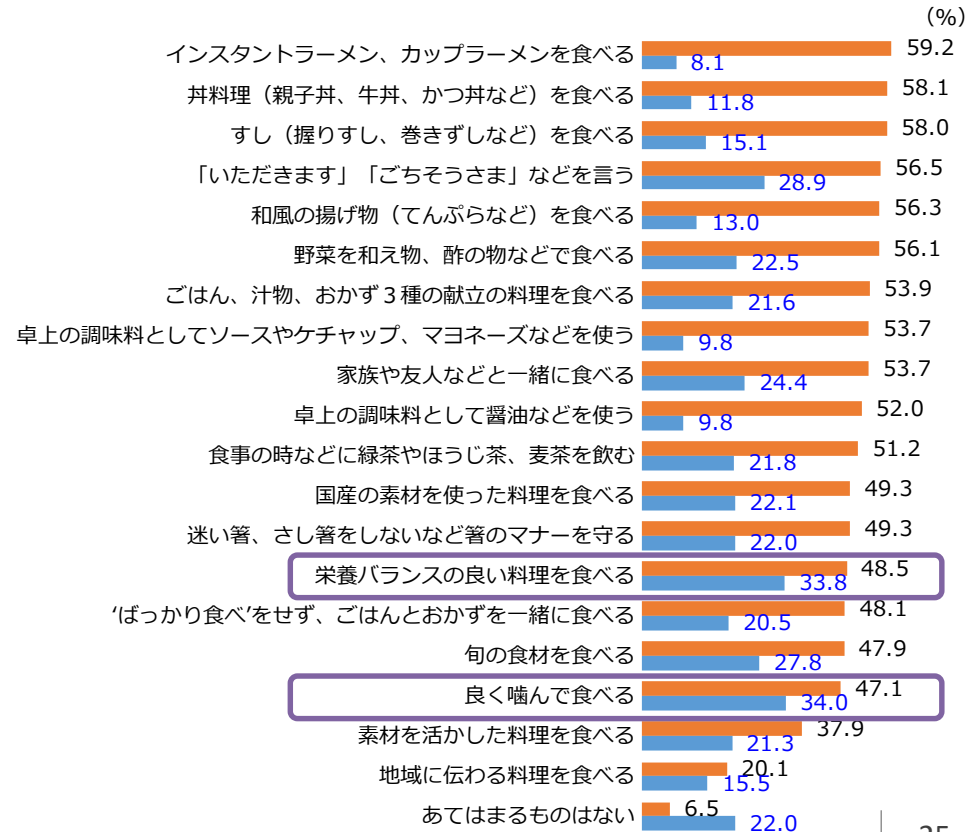
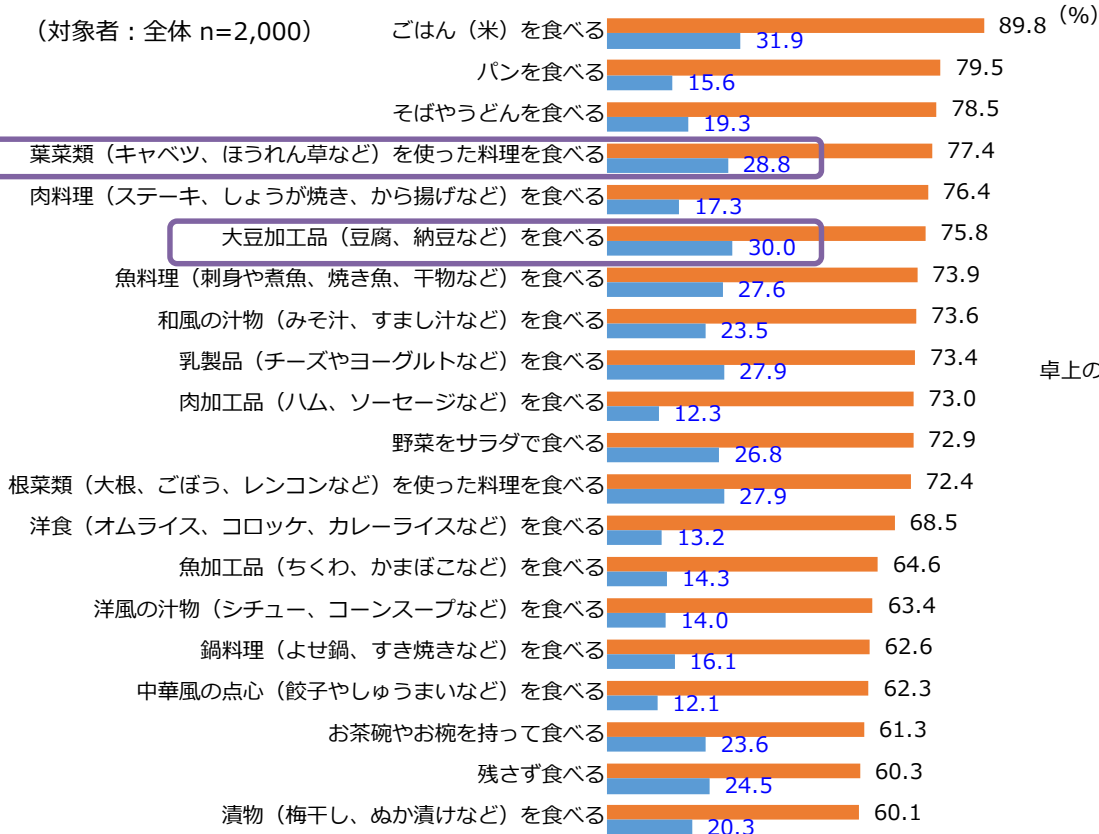
- 食べる側として実施したことは、「ごはんを食べる」、「パンを食べる」、「そばやうどんを食べる」、「葉菜類を使った料理を食べる」、「肉料理を食べる」、「大豆加工品を食べる」、「魚料理を食べる」など基本的な項目が多くあがった。
- 今後増やしていきたいことは、「良く噛んで食べる」、「栄養のバランスの良い料理を食べる」、「大豆加工品を食べる」、「葉菜類を使った料理を食べる」など、健康を意識した項目が多くあがった。

Q16. 以下の「食」に関する項目のうち、あなたが、「食べる側」の立場として、

a) 最近1カ月間に実施したことを、すべてお選びください。

b) また、実施しているか否かに関わらず、今後増やしていきたいと思うことを、すべてお選びください。

■ 上段：最近1ヶ月に実施したこと
■ 下段：今後増やしていきたいこと



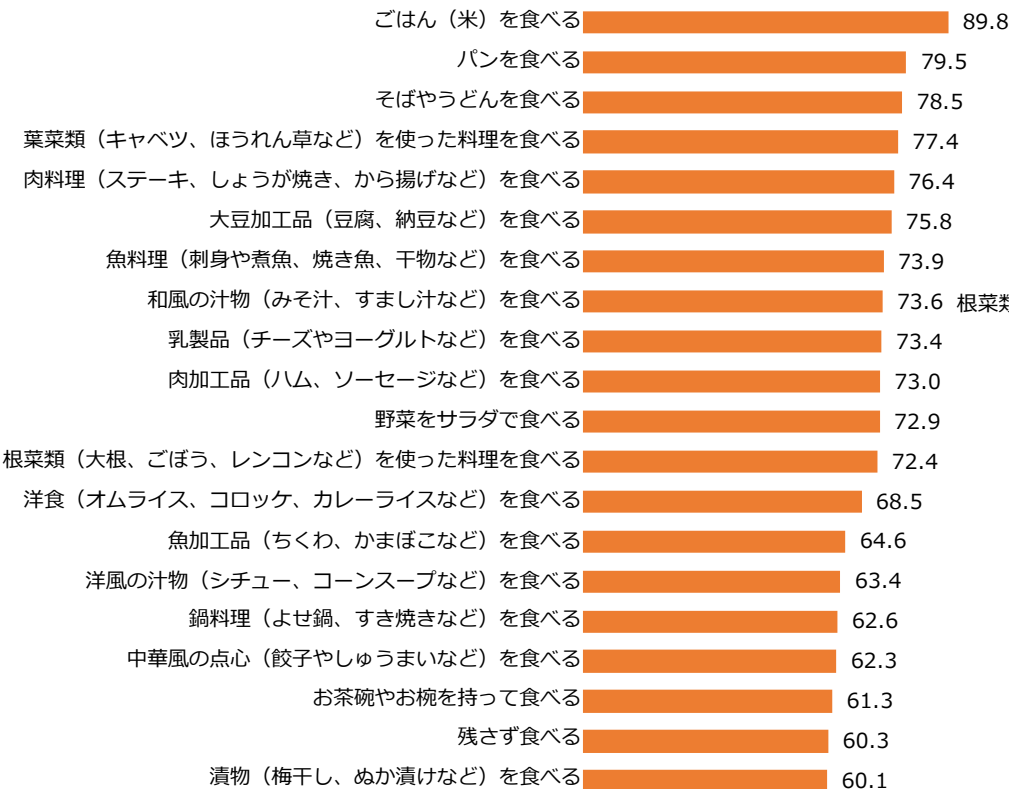
「食べる側」の立場として、実施したこと 【平成27年度との比較】

■ 食べる側として実施したことは、平成27年度と比較して大きな変動はなかった。

Q16. 以下の「食」に関する項目のうち、あなたが、「食べる側」の立場として、
a) 最近1カ月間に実施したことを、すべてお選びください。

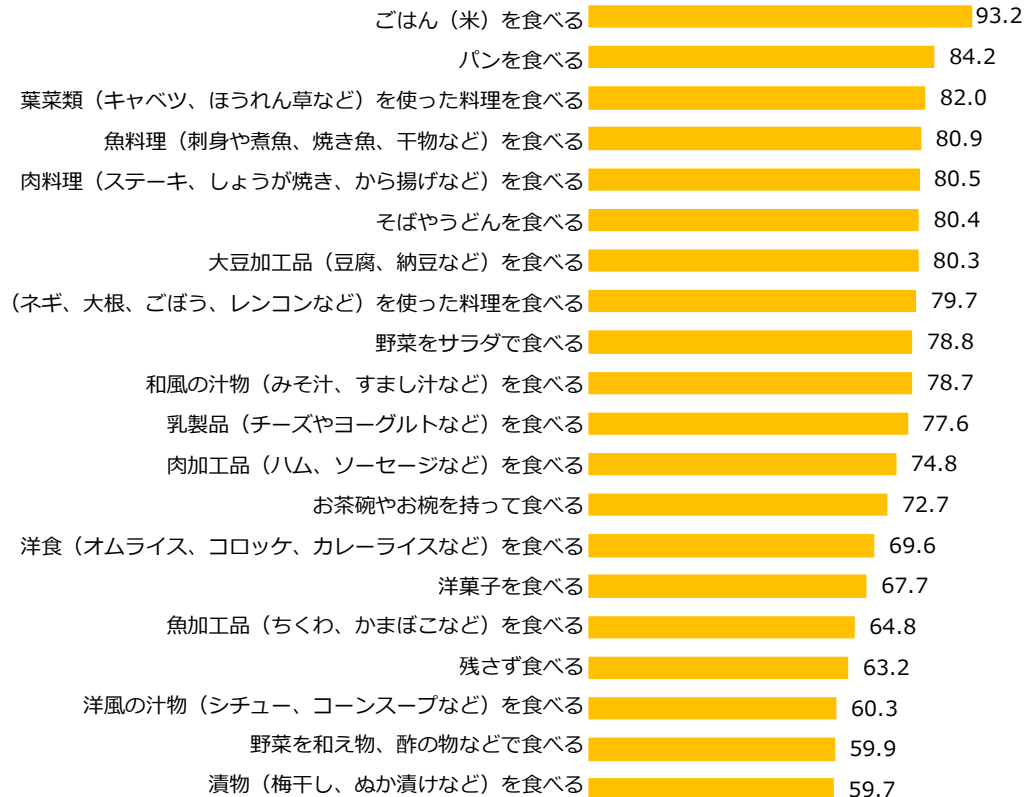
【令和元年度】 実施したことTOP20

(対象者：全体 n=2,000) (%)



【平成27年度】 実施したことTOP20

(対象者：全体 n=10,235) (%)



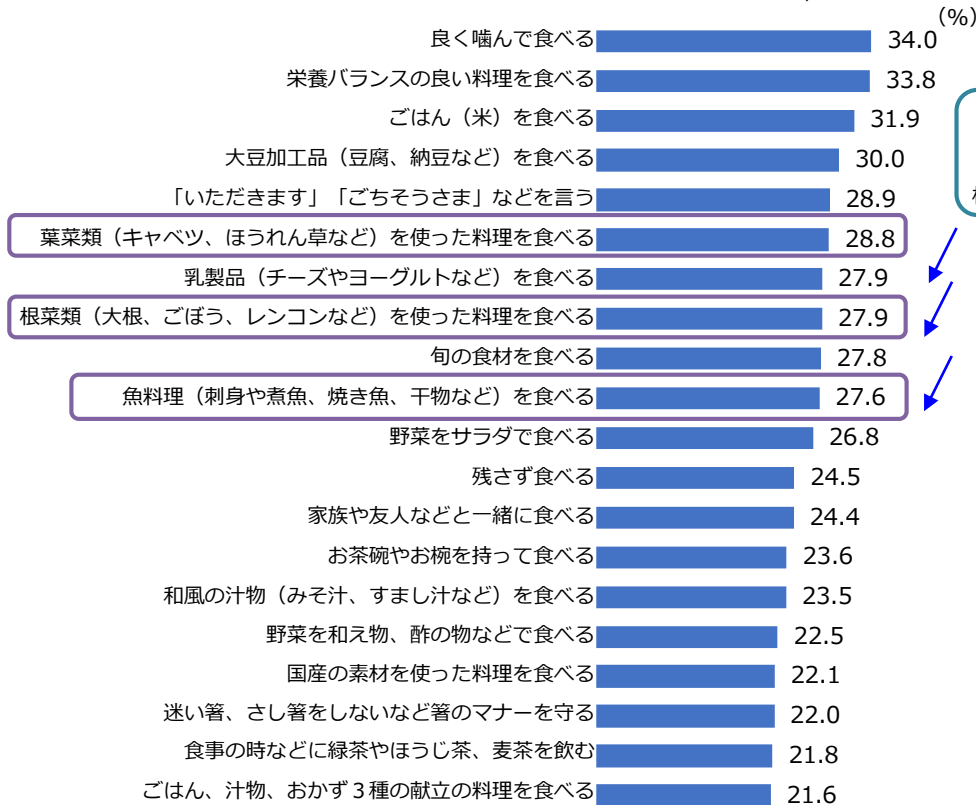
「食べる側」の立場として、今後増やしていきたいこと 【平成27年度との比較】

- 食べる側として今後増やしていきたいことを平成27年度と比較すると、「魚料理を食べる」、「葉菜類を使った料理を食べる」、「根菜類を使った料理を食べる」など、全体的に低下している項目が多かった。

Q16. 以下の「食」に関する項目のうち、あなたが、「食べる側」の立場として、
b) また、実施しているか否かに関わらず、今後増やしていきたいと思うことを、すべてお選びください。

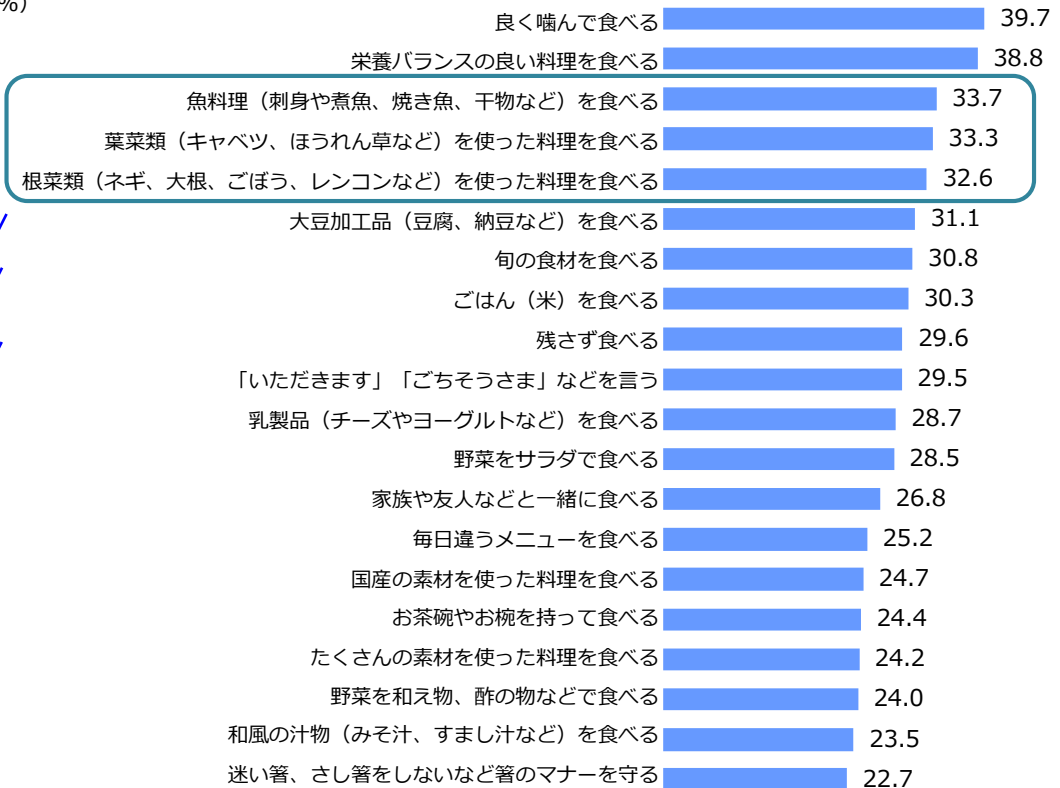
【令和元年度】 今後増やしていきたいことTOP20

(対象者：全体 n=2,000)



【平成27年度】 今後増やしていきたいことTOP20

(対象者：全体 n=10,235) (%)



「食事をつくる側」の立場として、実施したこと・増やしたいこと 【ふだんの料理者】

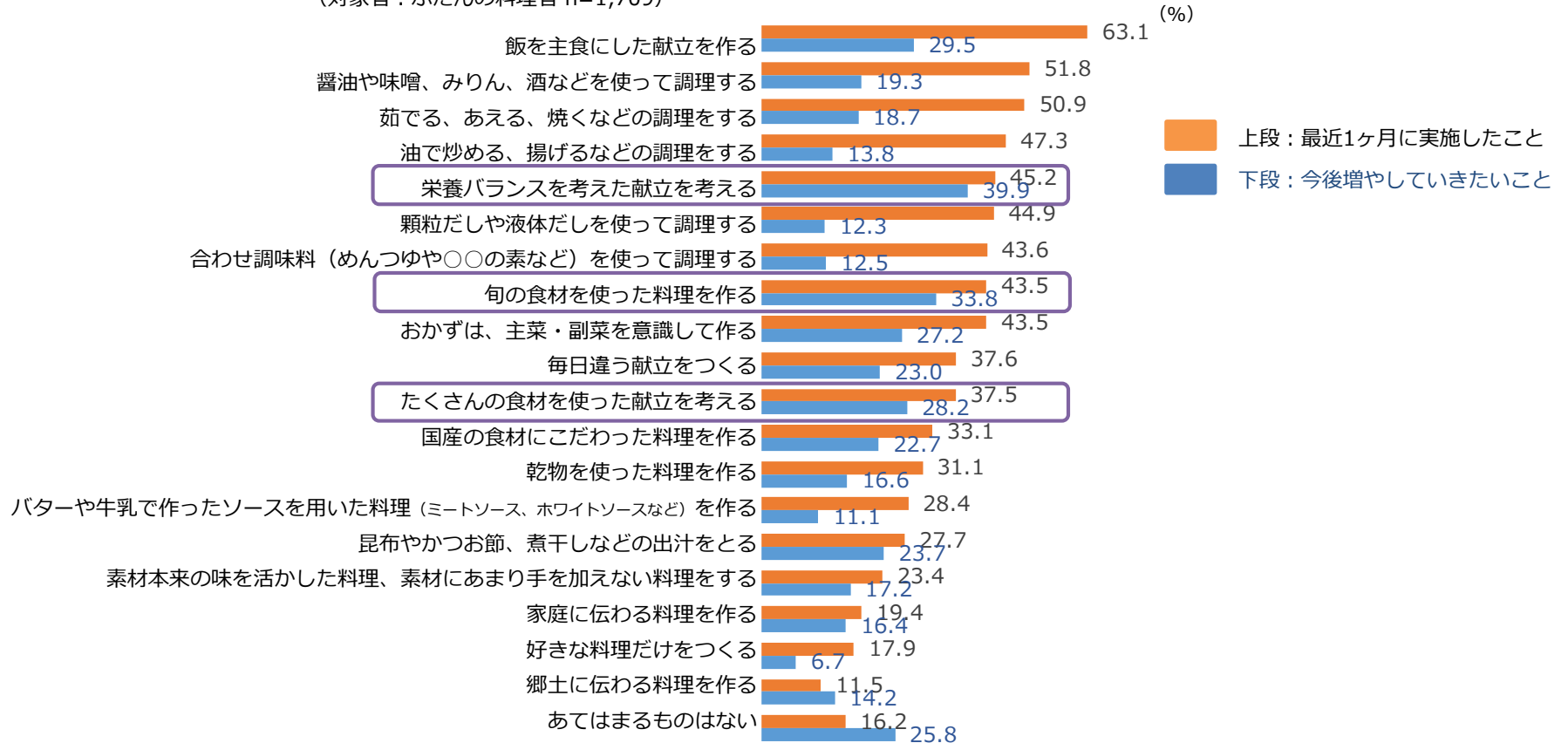
- 食事を作る立場として実施したことは、「飯を主食とした献立を作る」、「醤油や味噌、みりん、酒などを使って調理する」、「茹でる、あえる、焼くなどの調理をする」などが高かった。
- 今後増やしていきたいことは、「栄養のバランスを考えた献立を作る」、「旬の食材を使った料理を作る」、「たくさんの食材を使った献立を考える」が多くあがった。

Q17. 以下の「食」に関する項目のうち、あなたが、「食事をつくる側」の立場として、

a) 最近1カ月間に実施したことを、すべてお選びください。

b) また、実施しているか否かに関わらず、今後増やしていきたいと思うことを、すべてお選びください。

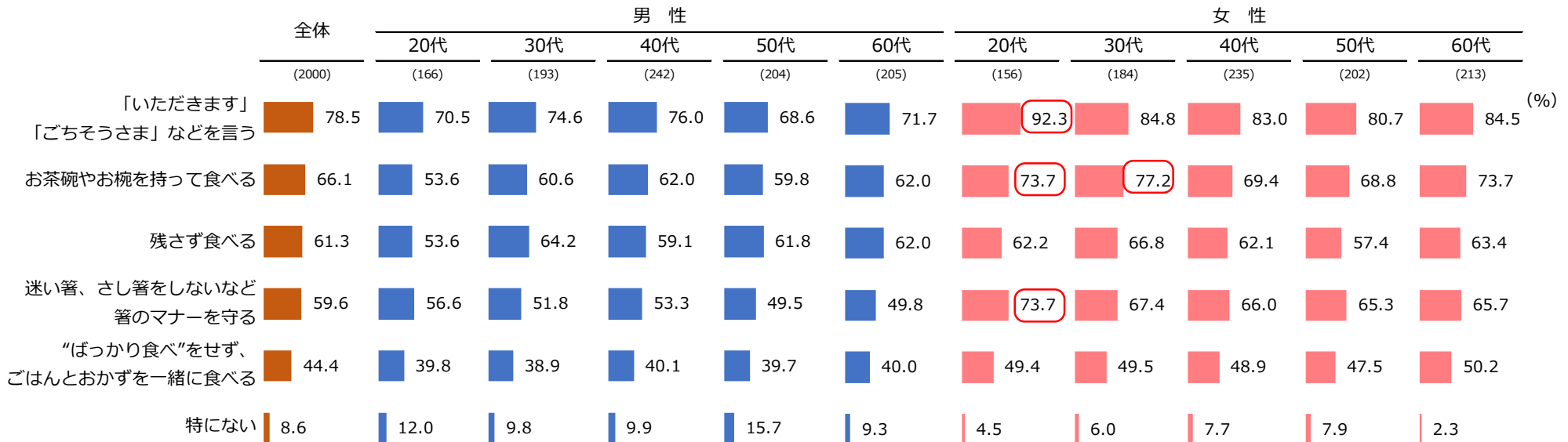
(対象者：ふだんの料理者 n=1,709)



子供に身に付けてほしいと思う作法 【性別・年代別】

- 子供に身に付けてほしい作法は、全体で「いただきます、ごちそうさまなどと言う」が最も高く、「お茶碗やお椀を持って食べる」、「残さずに食べる」、「迷い箸、さし箸など箸のマナーを守る」の順で高かった。
- いずれも女性で男性より高く、特に子育て世代である女性20代、30代で高かった。

Q8. あなたが子供（幼児（3～6歳）～高校生）に身に付けていてほしいと思う作法は何ですか？あてはまるものをすべてお答えください。
※調査対象の子供とはご自身の子供だけでなく、一般的な子供を指します。



3. 郷土料理について

- ・自身が生まれ育った地域の郷土料理の認知 【全体】
- ・自身または他の地域の「郷土料理」の食事頻度 【全体／性別・郷土料理認知者】
- ・郷土料理の作り方を受け継いだこと／教えたり伝えていること 【全体／性別・郷土料理認知者】

- 『郷土料理』についての結果をまとめると、『生まれ育った地域の郷土料理』を「知っている」は3割をやや上回る程度であった。
- 『郷土料理の食事頻度』は、全体では「月に1回以上（計）」は2割弱で、「まったく食べない」が4割弱であった。
【郷土料理の認知者】では、「月に1回以上（計）食べる」は約3割、認知者の男女別では男性の方が頻度は高かった。
- 『郷土料理の作り方を受け継いだ経験』は、「受け継いだことがある」は全体で2割を下回り、「作り方を教えたり、伝えたことがある」は1割に満たなかった。ただし【郷土料理の認知者】では「受け継いだことがある」が4割以上、さらに【郷土料理の認知かつ受け継いだことがある】の場合、「教えたり伝えたことがある」は半数以上に達し、受け継ぐ経験がそれを伝えることに繋がっていると考えられる。

Q13. あなたは、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理を1品以上知っていますか。

Q14. あなたは、ご自身または他の地域の郷土料理をどの位の頻度で食べていますか。

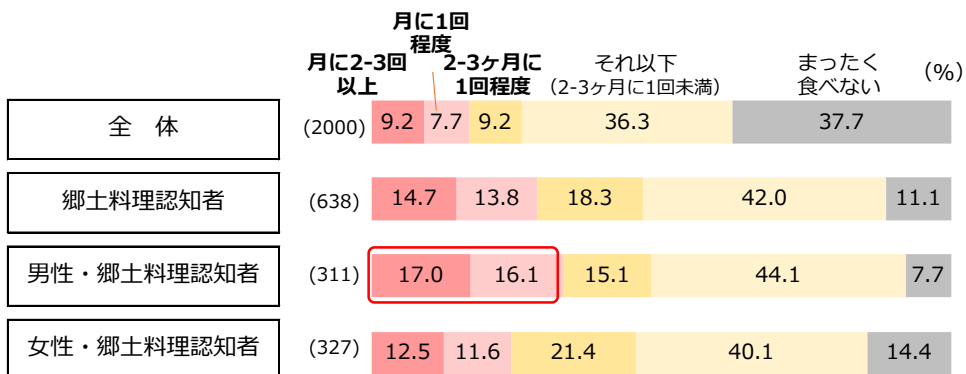
Q15. あなたは郷土料理の作り方を誰かから教わったり受け継いだことや、誰かに教えたり伝えていることがありますか。

(対象者：全体 n=2,000)

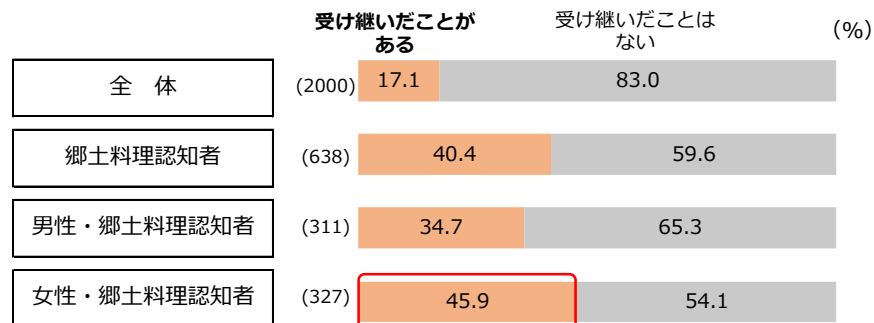
【自身が生まれ育った地域の郷土料理の認知】



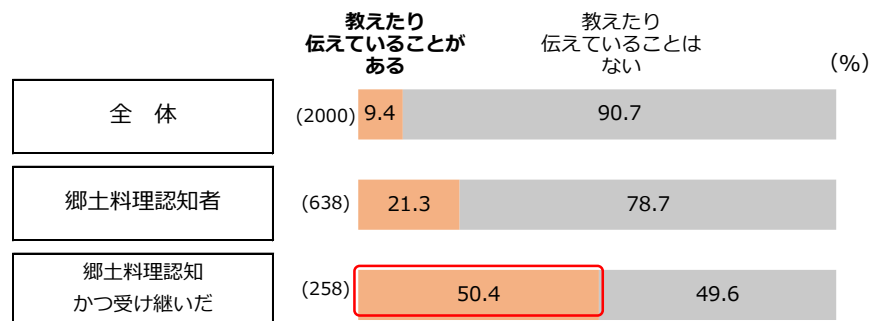
【自身または他の地域の「郷土料理」の食事頻度】



【郷土料理の作り方を受け継いだこと】



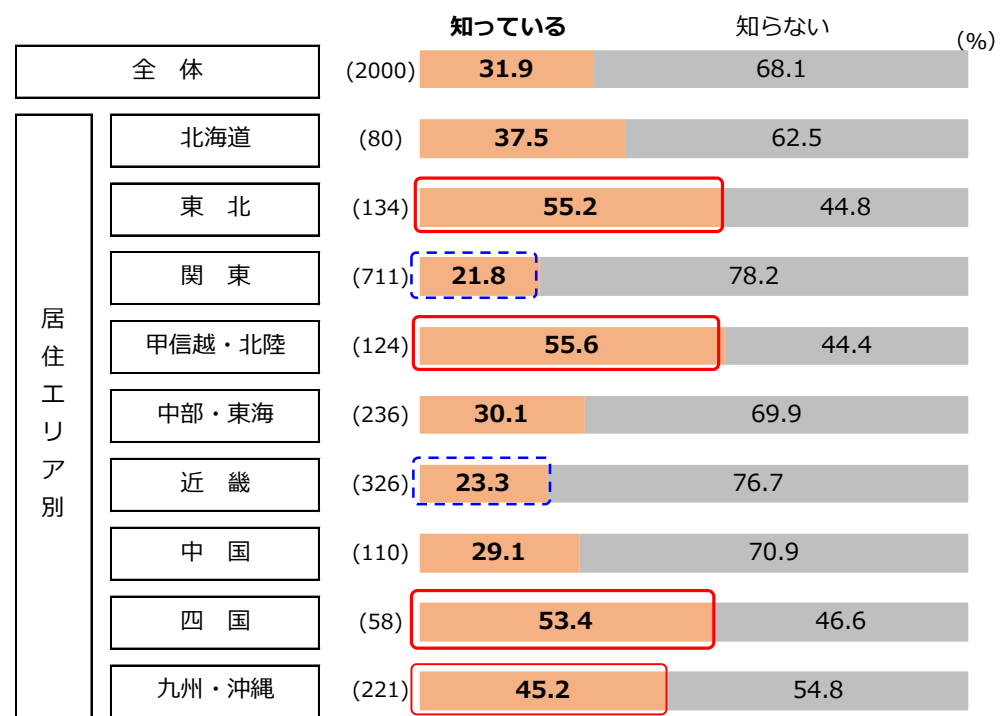
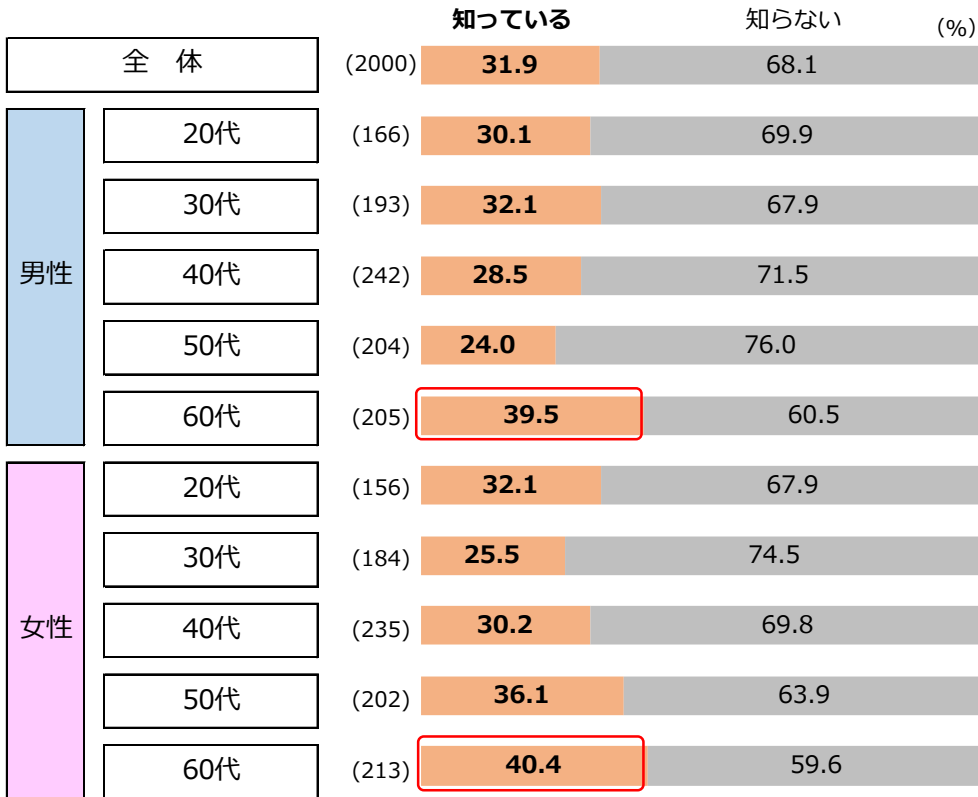
【郷土料理の作り方を教えたり伝えていること】



自身が生まれ育った地域の郷土料理の認知 【性別・年代別／居住エリア別】

- 「自身が生まれ育った地域の郷土料理を知っている」は男女とも60代で他の年代よりも高かった。
- 居住エリア別で『東北』、『甲信越・北陸』、『四国』、『九州・沖縄』では認知度は高く、一方で大都市圏を含む『関東』、『近畿』では低く、居住エリアによる差が見られた。

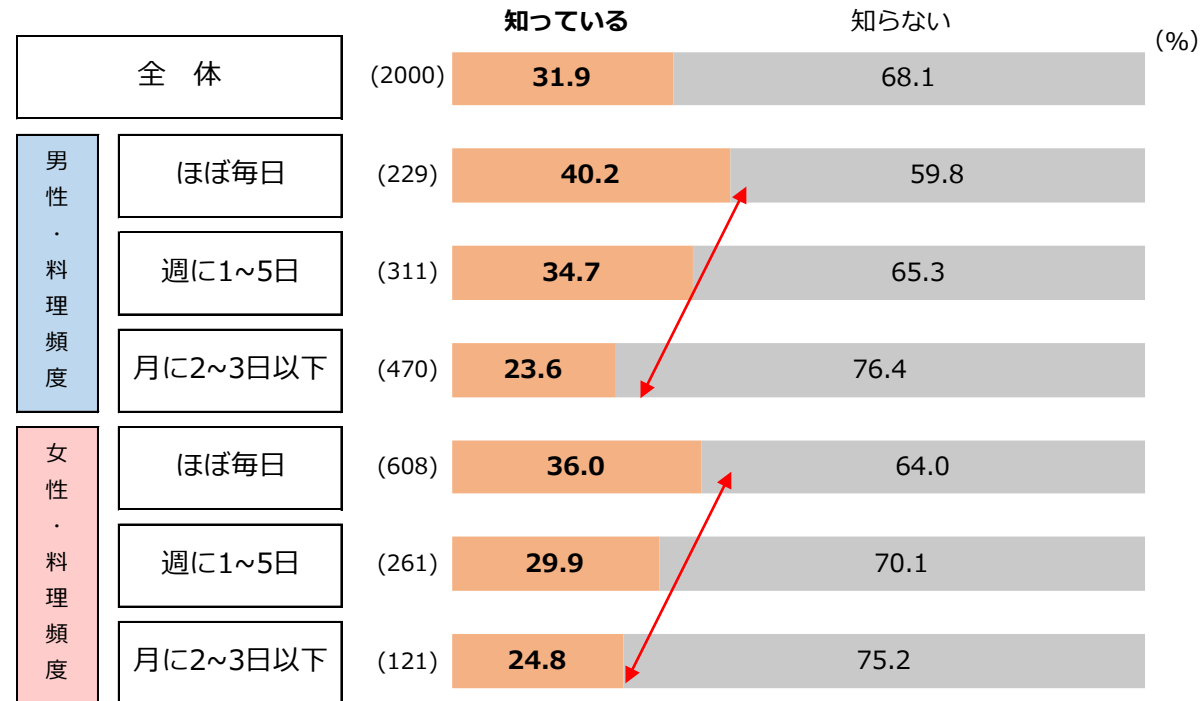
Q13. あなたは、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理を1品以上知っていますか？
知っている方は、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理を具体的にお答えください。



自身が生まれ育った地域の郷土料理の認知 【性別・料理頻度別】

- 『自分が生まれ育った地域の郷土料理』の認知度は、ふだんの料理頻度が多いほど高く、特に男性の【料理をほぼ毎日作っている】層で認知度が高かった。

Q13. あなたは、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理を1品以上知っていますか。



自身が生まれ育った地域の郷土料理 自由回答のまとめ

【郷土料理の認知者のうち自由回答の回答者：居住エリア別】

- 自身が生まれ育った地域の郷土料理の認知者の自由回答を居住エリア別にまとめると、それぞれのエリアごとに多くあがった料理名は他のエリアにはなく、エリアそれぞれの特徴が見られた。

Q13. あなたは、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理を1品以上知っていますか？
知っている方は、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理を具体的にお答えください。

北海道 (回答者：30名)

石狩鍋	12
ジンギスカン	8
ちゃんちゃん焼き	2
その他	9

- ・豚丼
- ・サンギ
- ・ホッケ
- ・すり身汁

- ・じゃっば汁
- ・凍み豆腐
- ・はらこ飯
- ・馬肉鍋

東北 (回答者：74名)

きりたんぼ	13
ずんだ餅	7
せんべい汁	6
おくずかけ	5
けの汁	5
芋煮	5
いかになじん	4
こづゆ	4
その他	25

関東 (回答者：155名)

しもつかれ	15
のっぺい汁	9
おつきりこみ	6
がめ煮／筑前煮	4
きりたんぼ	4
ほうとう	4
あんこう鍋	4
いかになじん	3
なめろう	3
その他	103

- ・うずめ飯
- ・穴子飯
- ・えび飯

- ・あんこ餅入りのお雑煮
- ・皿鉢料理
- ・いぎす豆腐
- ・しょうゆ豆

甲信越・北陸 (回答者：69名)

のっぺい汁	21
治部煮	6
おやき	5
ソースカツ丼	3
煮しめ	3
その他	31

- ・深川飯
- ・さんが焼き
- ・焼売
- ・どぶ汁

中部・東海 (回答者：71名)

味噌煮込みうどん	11
味噌カツ	5
きしめん	5
鶏ちゃん	3
てこね寿司	3
その他	48

- ・かぶら寿司
- ・山賊焼き
- ・鯉こく
- ・笹団子
- ・ほうとう

- ・鮎寿司
- ・赤味噌
- ・ひつまぶし
- ・黒はんぺん
- ・わさび漬
- ・味噌おでん

近畿 (回答者：76名)

いかなごのくぎ煮	11
たこ焼き	5
柿の葉寿司	4
西京漬	3
白みそ雑煮	3
かつめし	3
その他	47

中国 (回答者：32名)

ままかりの酢漬	4
お好み焼き	4
かきの土手鍋	3
その他	21

- ・明石焼き
- ・姫路おでん
- ・めはり寿司
- ・バラ寿司

四国 (回答者：31名)

鯛めし	6
そば米雑炊／そば米汁	4
田舎寿司／松山寿司	3
その他	19

九州 (回答者：100名)

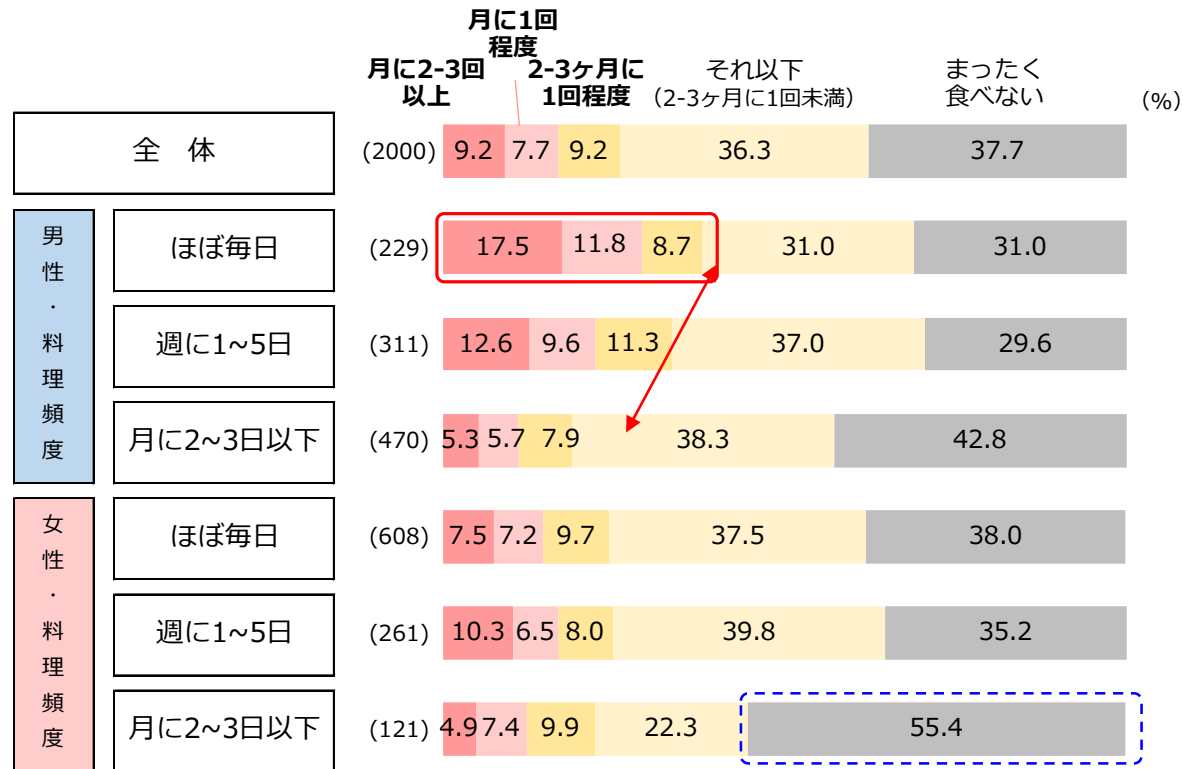
がめ煮／筑前煮	23
だご汁・だんご汁	14
ちゃんぽん	6
中身汁	4
鶏飯	4
具雑煮	3
豚骨料理	3
イナムドウチ	3
その他	41

- ・湯葉／湯豆腐
- ・チキン南蛮
- ・もつ鍋
- ・馬刺し
- ・茶粥
- ・高菜飯
- ・とじこまめ
- ・田芋炒め

自身または他の地域の「郷土料理」の食事頻度 【性別・料理頻度別】

- 男性は、料理頻度が高いほど『郷土料理を食べる頻度』は高かった。
女性も男性ほど差はなかったが、【料理頻度の低い層】では「郷土料理をまったく食べない」が半数以上と多かった。

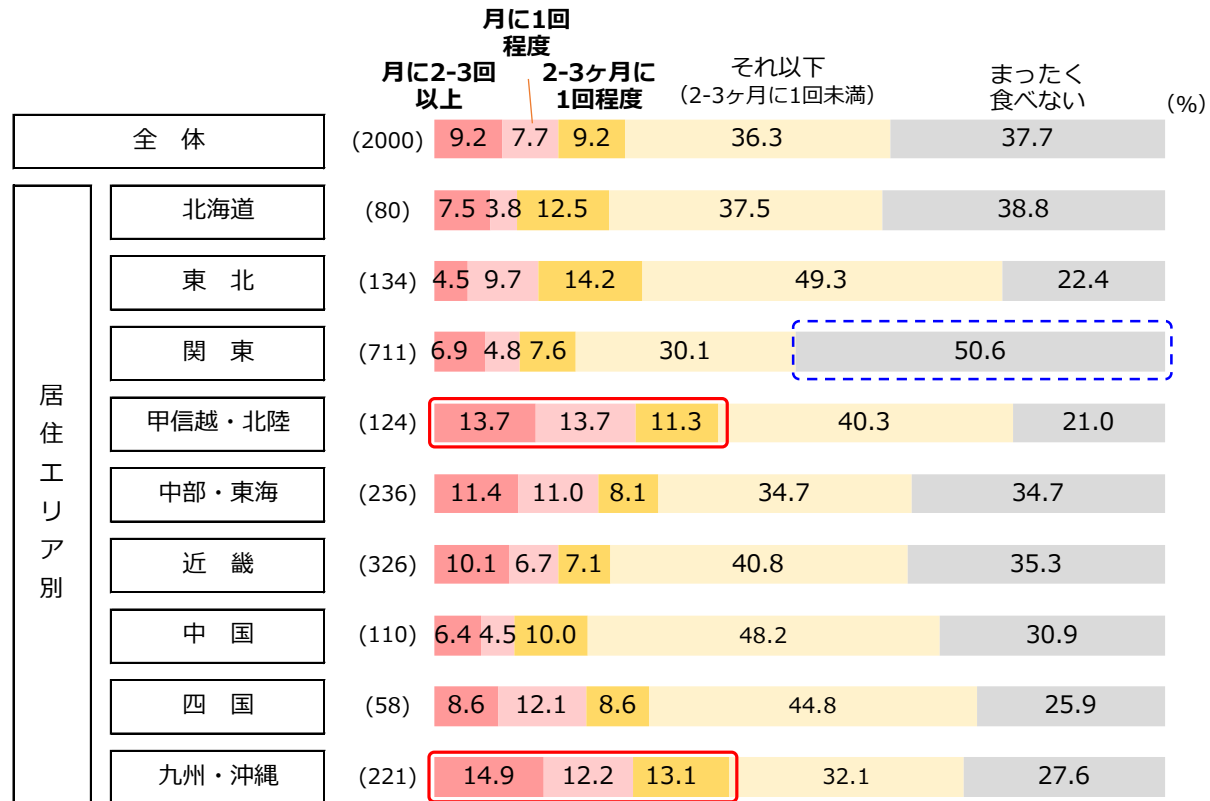
Q14. あなたは、ご自身または他の地域の郷土料理をどの位の頻度で食べていますか。



自身または他の地域の「郷土料理」の食事頻度 【居住エリア別】

- 居住エリア別の郷土料理の食事頻度は、『甲信越・北陸』と『九州・沖縄』で高く、『関東』で低かった。

Q14. あなたは、ご自身または他の地域の郷土料理をどの位の頻度で食べていますか？



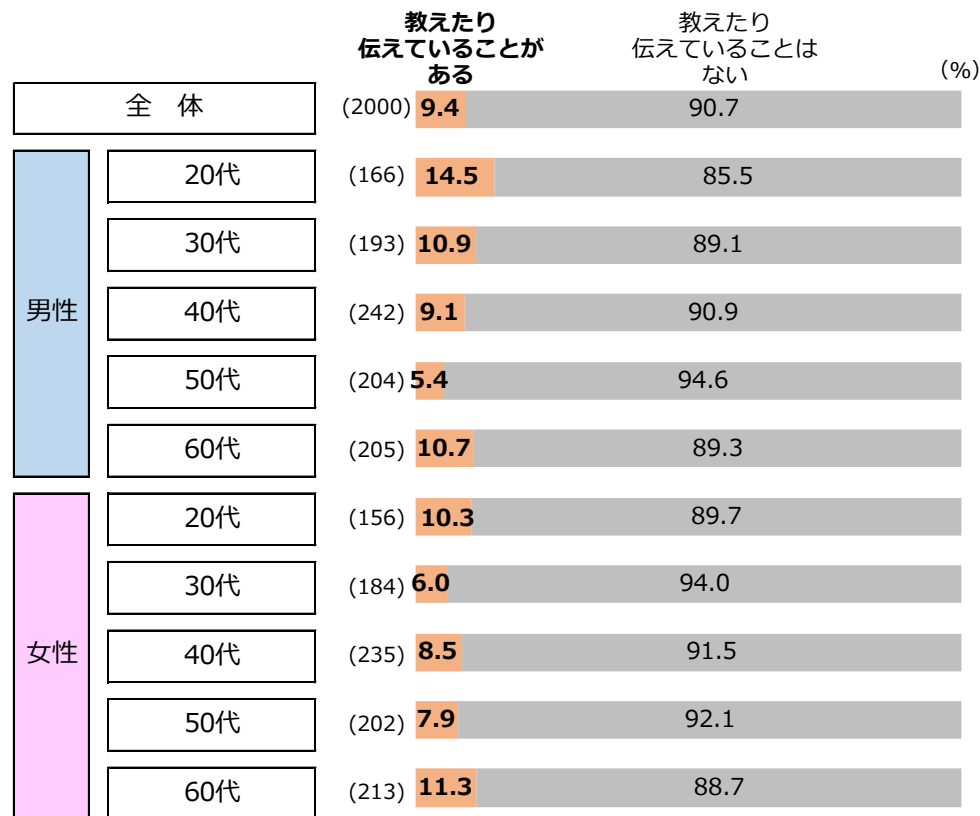
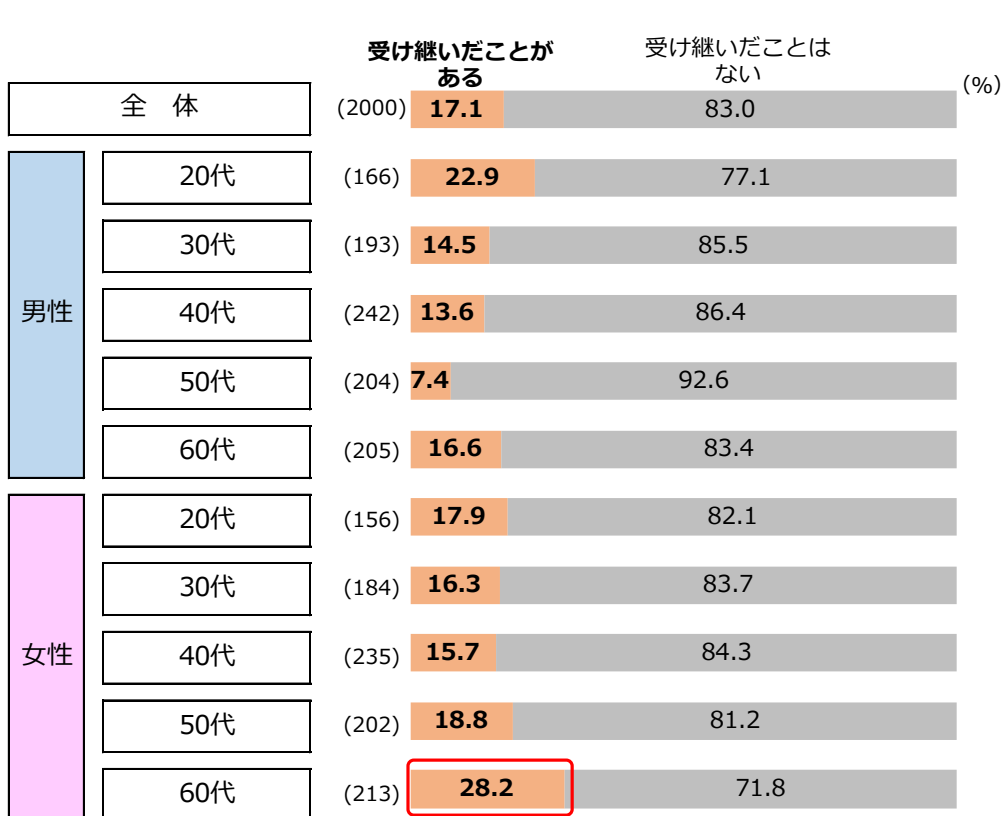
郷土料理の作り方を受け継いだこと／教えたり伝えていること 【性別・年代別】

- 『郷土料理の作り方を受け継いだ経験』は女性60代でやや高かった。
- 『郷土料理の作り方を教えたり伝えた経験』は、男女別・年代別の大きな差はなかった。

Q15. あなたは郷土料理の作り方を誰かから教わったり受け継いだことや、誰かに教えたり伝えていることがありますか。

【郷土料理の作り方を受け継いだ経験】

【郷土料理の作り方を教えたり伝えた経験】

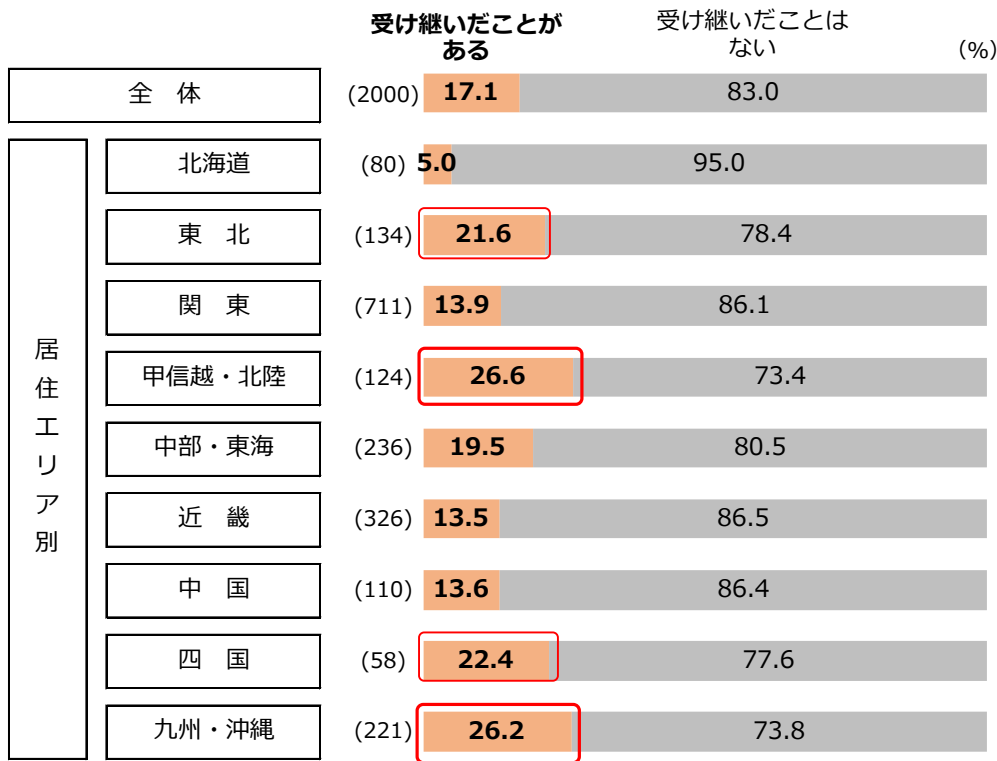


郷土料理の作り方を受け継いだこと／教えたり伝えていること 【居住エリア別】

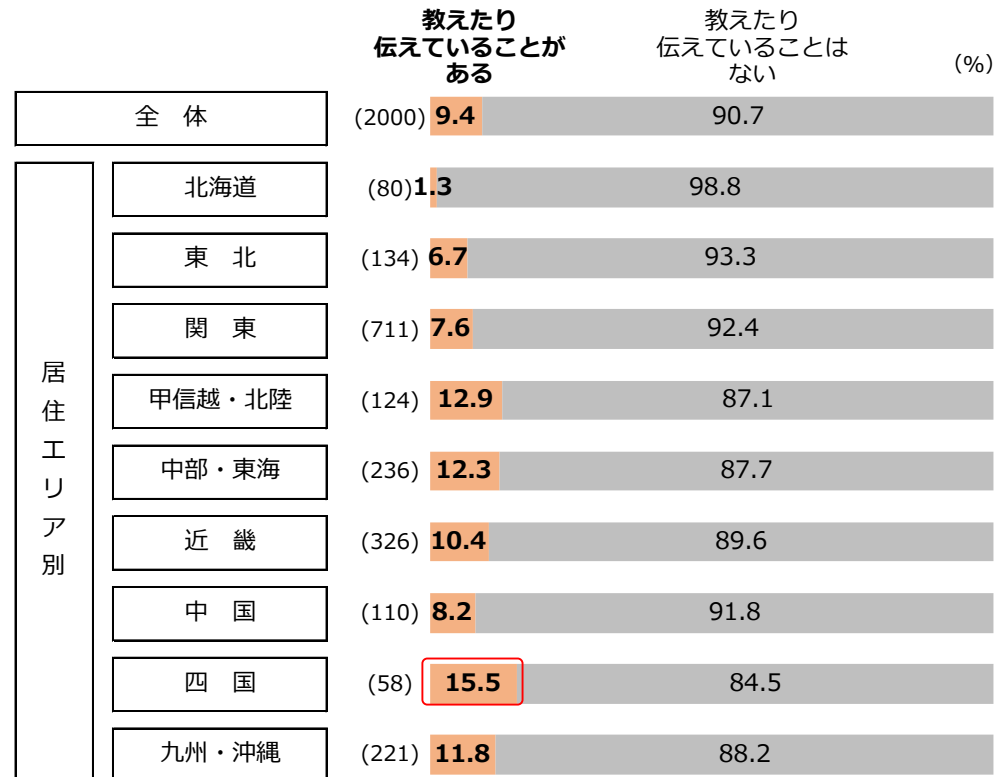
- 『甲信越・北陸』、『九州・沖縄』、『東北』、『四国』で郷土料理の作り方を受け継いだ経験は他のエリアより高かった。
- 郷土料理の作り方を教えたり伝えた経験は『四国』でやや高かった。

Q15. あなたは郷土料理の作り方を誰かから教わったり受け継いだことや、誰かに教えたり伝えていることがありますか。

【郷土料理の作り方の受け継いだ経験】



【郷土料理の作り方を教えたり伝えた経験】



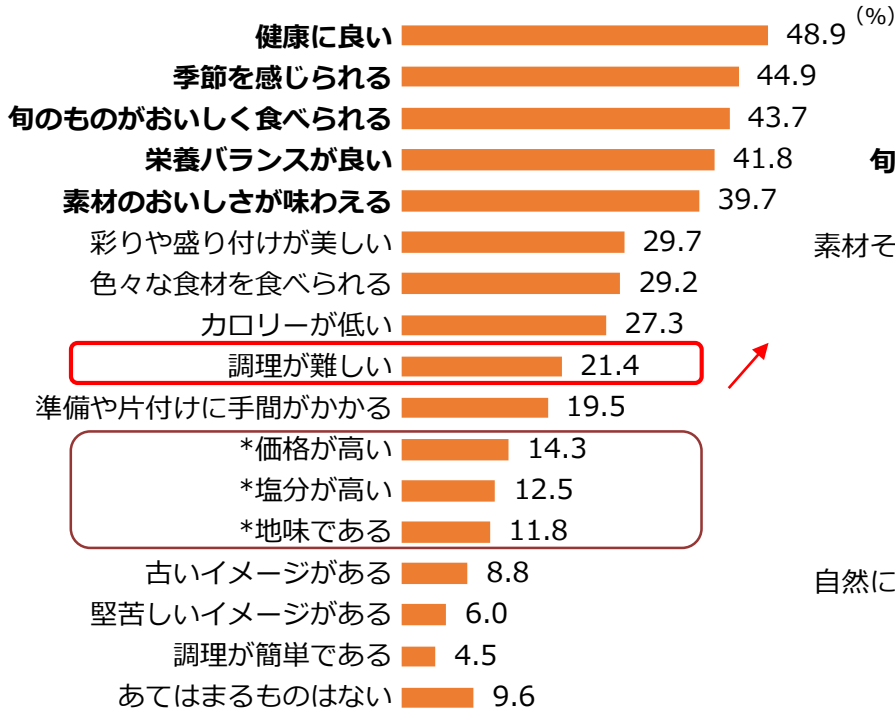
4. 和食および和食文化について

「和食」および「和食文化」に対するイメージ 【全体：平成27年度との比較】

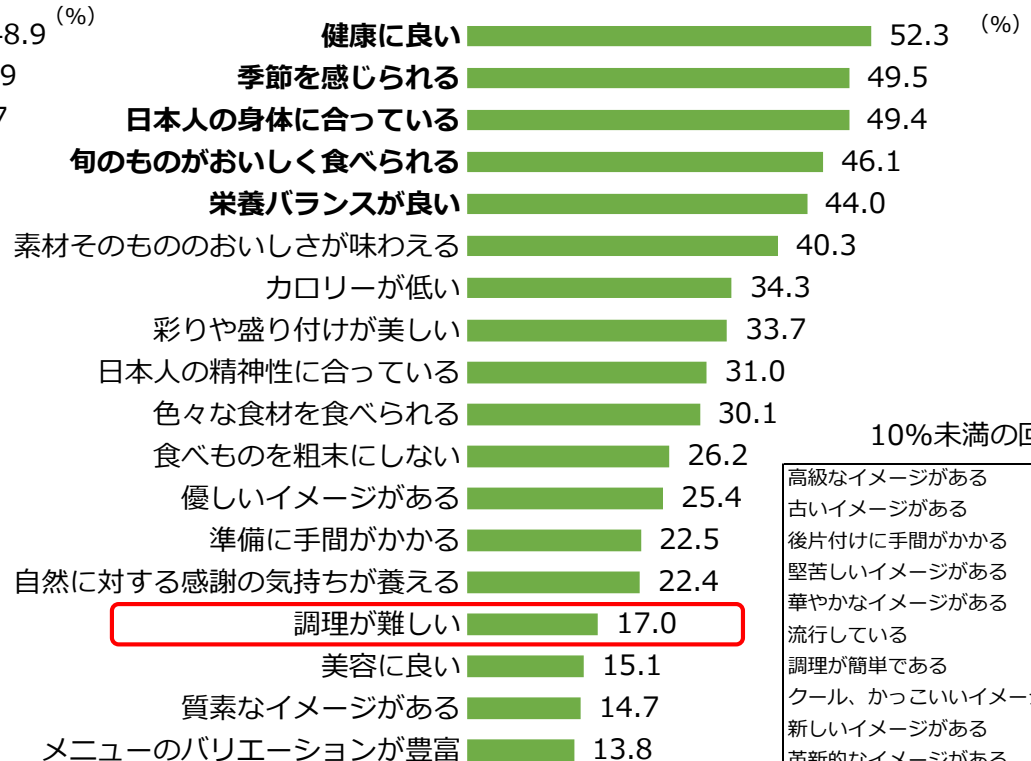
- 『和食および和食文化』に対するイメージは、全体で「健康に良い」が最も高く、以下「季節を感じられる」、「旬のものがおいしく食べられる」、「栄養バランスが良い」、「素材のおいしさが味わえる」の順で高かった。
- 「健康に良い」、「季節を感じられる」、「旬のものがおいしく食べられる」といった上位イメージは平成27年度調査でも高いイメージであった。
その中でネガティブなイメージである「調理が難しい」は平成27年度よりもやや高まった。

Q18. 「和食」および「和食文化」に対するあなたのイメージとして、あてはまるものをすべてお選びください。

【令和元年度】 (対象者：全体 n=2,000)



【平成27年度】 (対象者：全体 n=10,235)



10%未満の回答

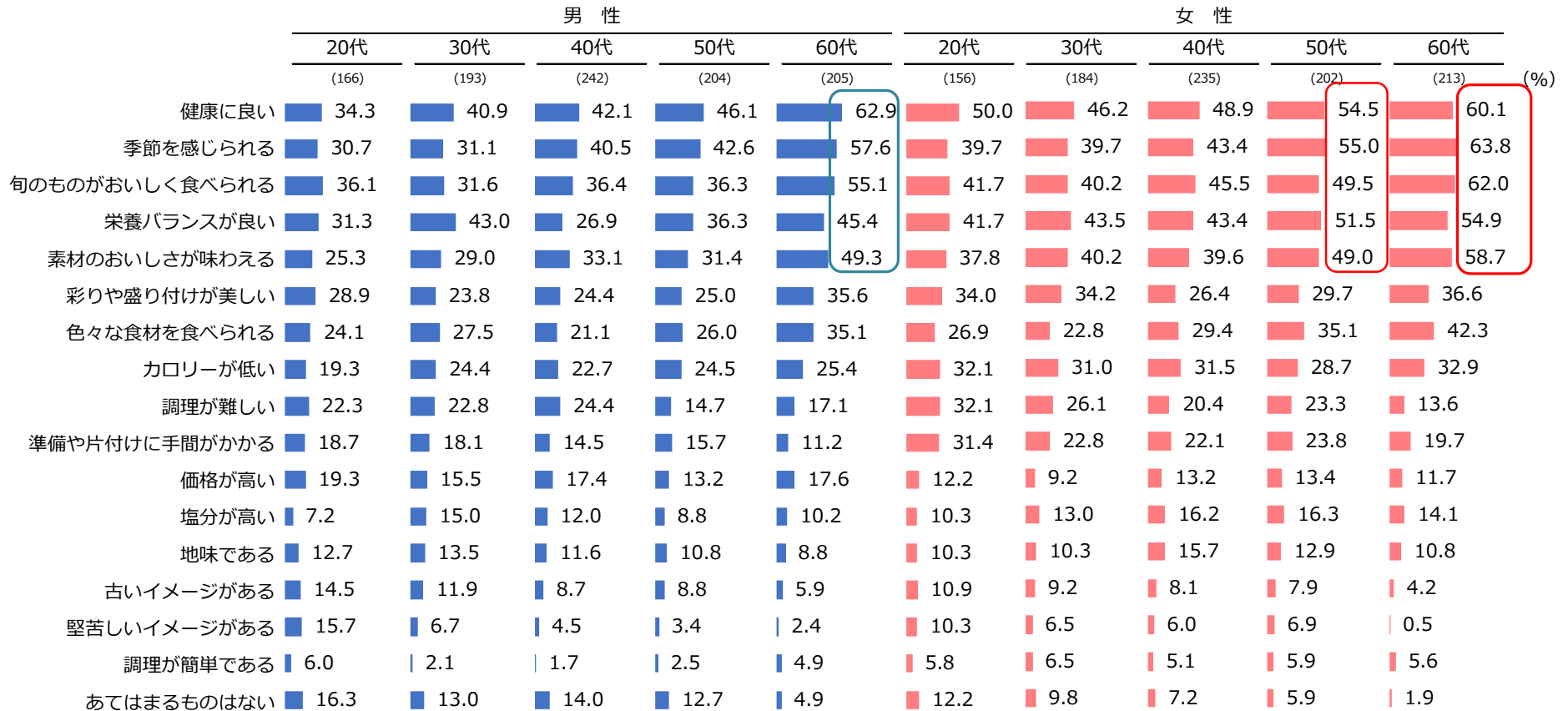
高級なイメージがある	9.0
古いイメージがある	7.2
後片付けに手間がかかる	5.8
堅苦しいイメージがある	4.4
華やかなイメージがある	4.2
流行している	3.8
調理が簡単である	3.2
クール、かっこいいイメージがある	2.7
新しいイメージがある	1.1
革新的なイメージがある	1.0
あてはまるものはない	7.3

*令和元年度（今回）調査のみの項目

「和食」および「和食文化」に対するイメージ 【性別・年代別】

■ 『和食および和食文化』に対するイメージとして全体で上位にあがった「健康に良い」、「季節を感じられる」、「旬のものがおいしく食べられる」、「栄養バランスが良い」、「素材のおいしさが味わえる」は、いずれも男性は60代で、女性は50代と60代で高かった。

Q18. 「和食」および「和食文化」に対するあなたのイメージとして、あてはまるものをすべてお選びください。



「和食」および「和食文化」に対するイメージ 【居住エリア別】

- 『和食および和食文化』に対するイメージを居住エリア別にみると、全体で上位イメージの「素材のおいしさが味わえる」は『北海道』で他のエリアよりも高いが、一方で「季節を感じられる」と「彩りや盛り付けが美しい」は他のエリアよりやや低かった。

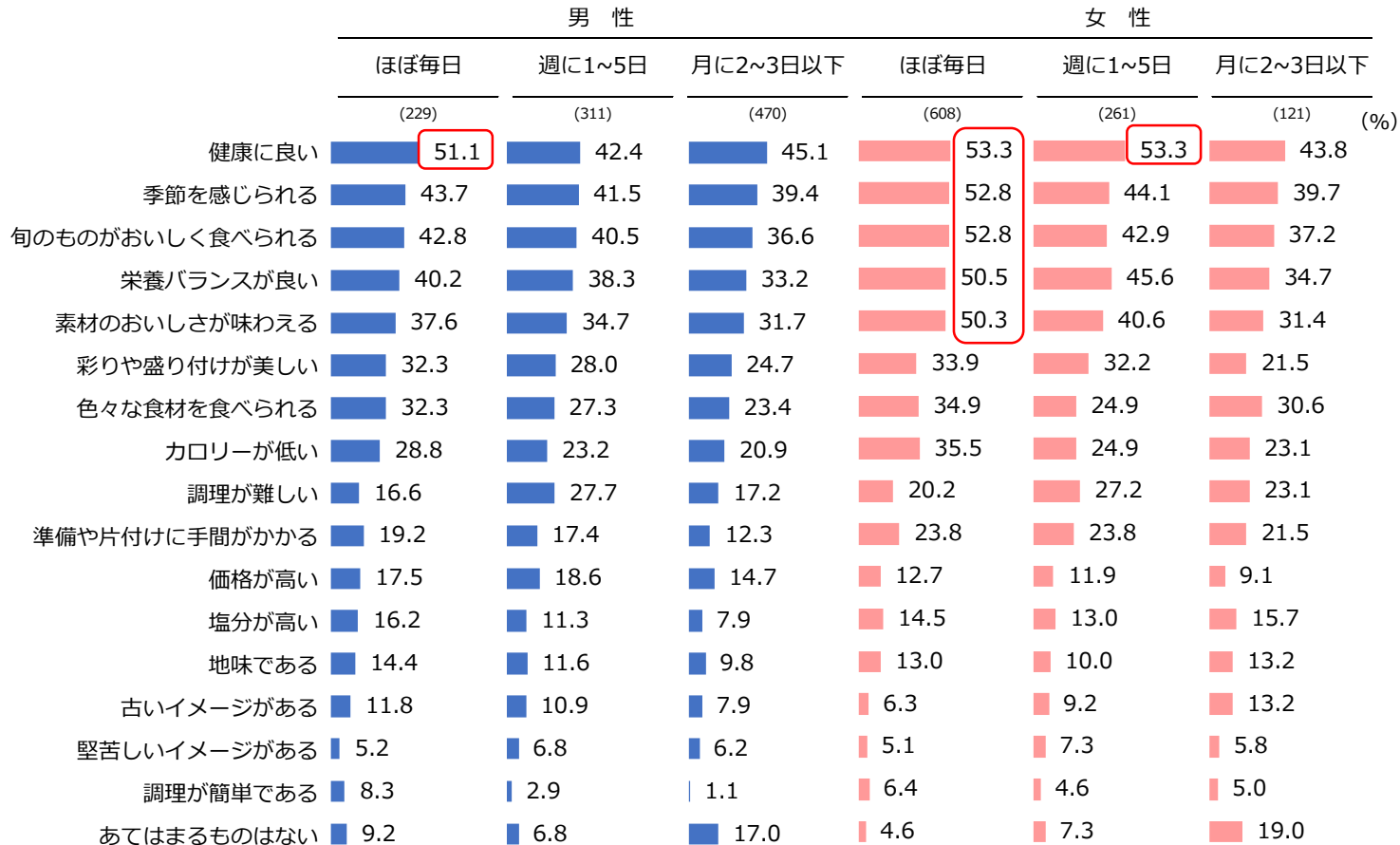
Q18. 「和食」および「和食文化」に対するあなたのイメージとして、あてはまるものをすべてお選びください。

	居住エリア別									(%)
	北海道 (80)	東北 (134)	関東 (711)	甲信越・北陸 (124)	中部・東海 (236)	近畿 (326)	中国 (110)	四国 (58)	九州・沖縄 (221)	
健康に良い	46.3	49.3	48.2	48.4	41.9	51.5	56.4	50.0	51.1	
季節を感じられる	35.0	50.0	44.2	46.0	42.4	46.0	50.9	44.8	45.2	
旬のものがおいしく食べられる	42.5	46.3	41.9	43.5	43.6	47.5	44.5	36.2	44.3	
栄養バランスが良い	38.8	41.0	39.0	42.7	41.9	44.8	44.5	48.3	43.9	
素材のおいしさが味わえる	47.5	42.5	39.0	41.1	34.3	39.9	44.5	31.0	41.6	
彩りや盛り付けが美しい	20.0	28.4	30.7	30.6	26.7	32.8	30.9	29.3	28.1	
色々な食材を食べられる	26.3	32.8	27.6	22.6	28.4	32.8	31.8	32.8	29.9	
カロリーが低い	27.5	26.9	26.2	22.6	26.3	28.5	29.1	25.9	32.1	
調理が難しい	21.3	26.1	20.7	26.6	18.6	22.1	16.4	24.1	21.3	
準備や片付けに手間がかかる	22.5	21.6	17.4	22.6	21.2	21.5	16.4	24.1	17.2	
価格が高い	18.8	19.4	13.5	7.3	14.0	15.0	13.6	13.8	15.8	
塩分が高い	12.5	12.7	11.8	14.5	12.3	12.0	11.8	12.1	14.9	
地味である	7.5	11.2	10.7	9.7	11.9	13.5	14.5	13.8	14.0	
古いイメージがある	7.5	6.7	7.7	9.7	12.3	9.8	4.5	3.4	11.8	
堅苦しいイメージがある	2.5	7.5	4.6	5.6	6.4	7.7	3.6	10.3	7.7	
調理が簡単である	7.5	4.5	4.4	3.2	3.8	6.4	3.6	1.7	3.6	
あてはまるものはない	15.0	8.2	11.1	9.7	9.7	7.4	8.2	3.4	9.0	

「和食」および「和食文化」に対するイメージ 【性別・料理頻度別】

- 全体の上位イメージである「健康に良い」、「季節を感じられる」、「旬のものがおいしく食べられる」、「栄養バランスが良い」、「素材のおいしさが味わえる」は、女性の料理頻度の高い層（ほぼ毎日）で特に高かった。

Q18. 「和食」および「和食文化」に対するあなたのイメージとして、あてはまるものをすべてお選びください。



「和食」および「和食文化」について教わったり、受け継いだこと 【何を】 【誰に】 【どういう風に】 自由回答のまとめ 【回答者】

- 『和食および和食文化』について教わったり、受け継いだことの自由回答は、491名から回答が得られた。「何を：料理の作り方」を「誰に：母親」に「どういう風に：一緒に作った、手伝いながら」がそれぞれ突出して多かった。
- 「何を」には具体的な料理名があがり、その中では「煮物／煮魚」が最も多く、その他にも「味噌汁」、「出汁の取り方」が多くあがり、「和食の基本的なメニュー」が多かった。

Q19. あなたが、誰かから「和食」および「和食文化」について教わったり、受け継いだことについて、【何を】 【誰から】 【どういう風に】 教わったり、受け継いだのか、具体的にお答えください。
※複数ある場合は、2つまでお答えください。
※教わったり、受け継いだことが「ない」場合は、1つ目の【何を】の欄に「特になし」と記入ください。

(回答者：n=491名)

(人数)

【何を】 ～教わったこと、受け継いだこと

料理の作り方	548
作法・マナー・食べ方	24
文化・伝統	24

具体的なメニューなど

煮物／煮魚	100
味噌汁	47
出汁の取り方等	44
お雑煮	27
肉じゃが	25
旬（季節）の食材を使う・食べる	16
おせち料理	14
その他 (手作り、栄養バランス、見た目の美しさ、など)	18

【誰に】

母親（義母、両親）	376
祖母	54
父親	12
夫・妻	11
学校の先生／料理の先生	10
テレビ／インターネット	8
祖父	6
親戚	4
その他	45

2つ目に同じ回答（母親など）があった場合は、1つ目と合わせて1カウントとした

【どういう風に】

一緒に作った、手伝いながら	195
見よう見まね／手本を見て	51
口頭で／聞きながら／聞いて	32
食事のときに／ふだんの料理のときに	24
学校の授業で習った	13
レシピ／作り方／料理方法／味付け	174

【どういう風に】の回答に「レシピ」、「作り方」などの回答が多くあった

- ・「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことの認知 【全体：平成27年度との比較】
- ・外国の方に紹介したい「和食文化」の有無 【全体：平成27年度との比較】
- ・和食に対する好意 【全体】



- 『和食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されたこと』を「知っている」は全体の3割弱に留まり、「聞いたことがある」も3割弱で、「知らない」は4割強であった。平成27年度と比較すると、認知度（知っている）は大きく低下した。
- 「外国の方に紹介したい和食文化がある」は全体の2割強と、平成27年度から大きな変化はなかった。
- 「和食が好き」は全体で8割以上と高く、大多数が『和食好き』であった。

Q20. あなたは、2013年に「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをご存じでしたか。

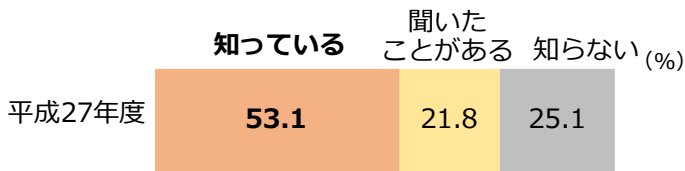
Q21. あなたは、外国の方に紹介したい「和食文化」がありますか。

Q23. あなたは、和食が好きですか。

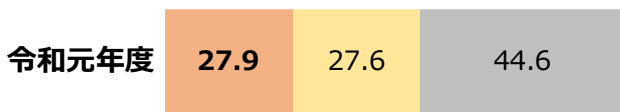
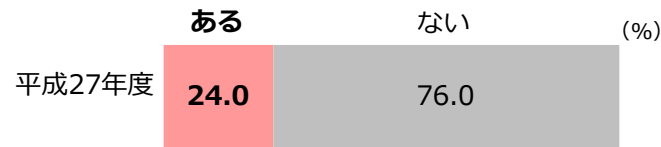
【「和食文化」のユネスコ登録認知】

【外国の方に紹介したい「和食文化」の有無】

【和食に対する好意】



(対象者：全体 n=10,235)



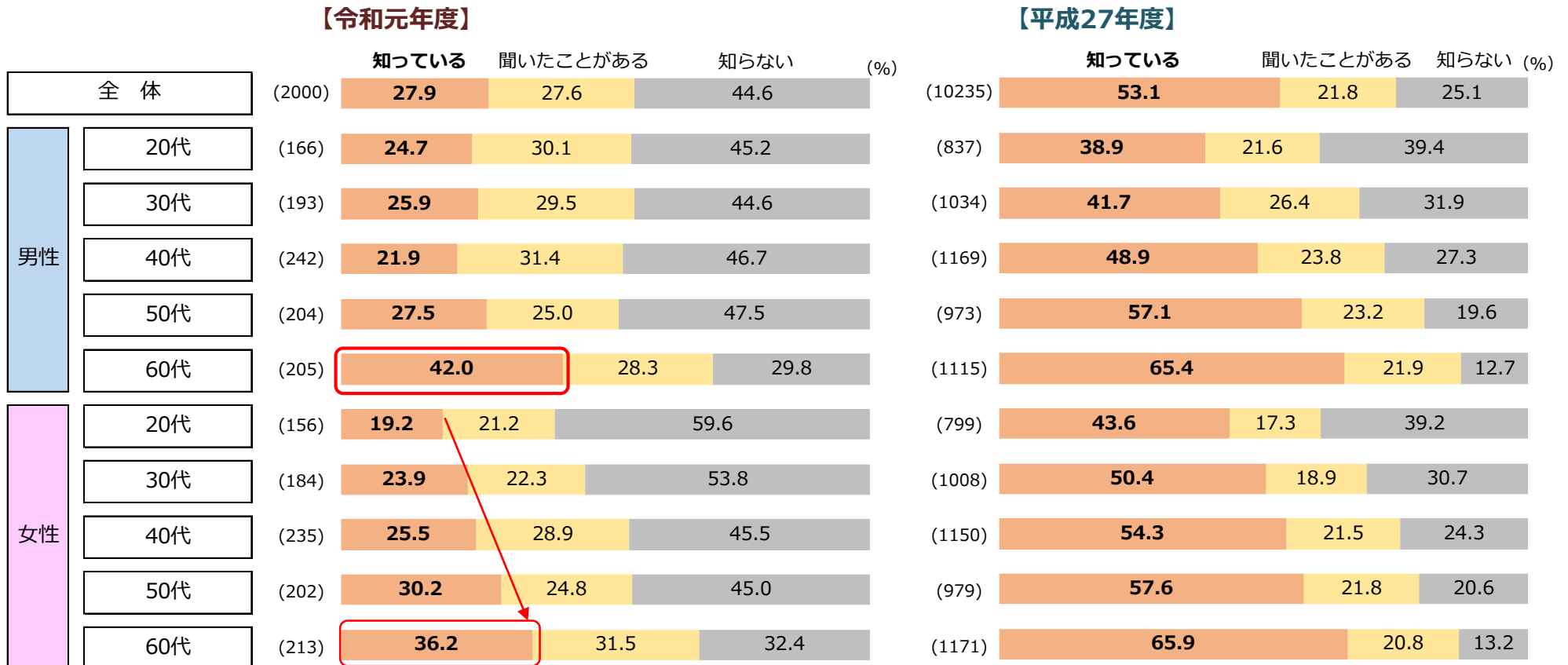
(対象者：全体 n=2,000)



「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことの認知 【性別・年代別：平成27年度との比較】

- 『和食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されたこと』の認知（知っている）は、男性は60代で4割以上と高かった。女性は年代とともに高くなり、20代で「知っている」は2割弱であるのに対して60代では3割を大きく上回った。
- 平成27年度と比較すると、認知度は男女ともすべての年代も大きく低下した。

Q20. あなたは、2013年に「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをご存じでしたか。



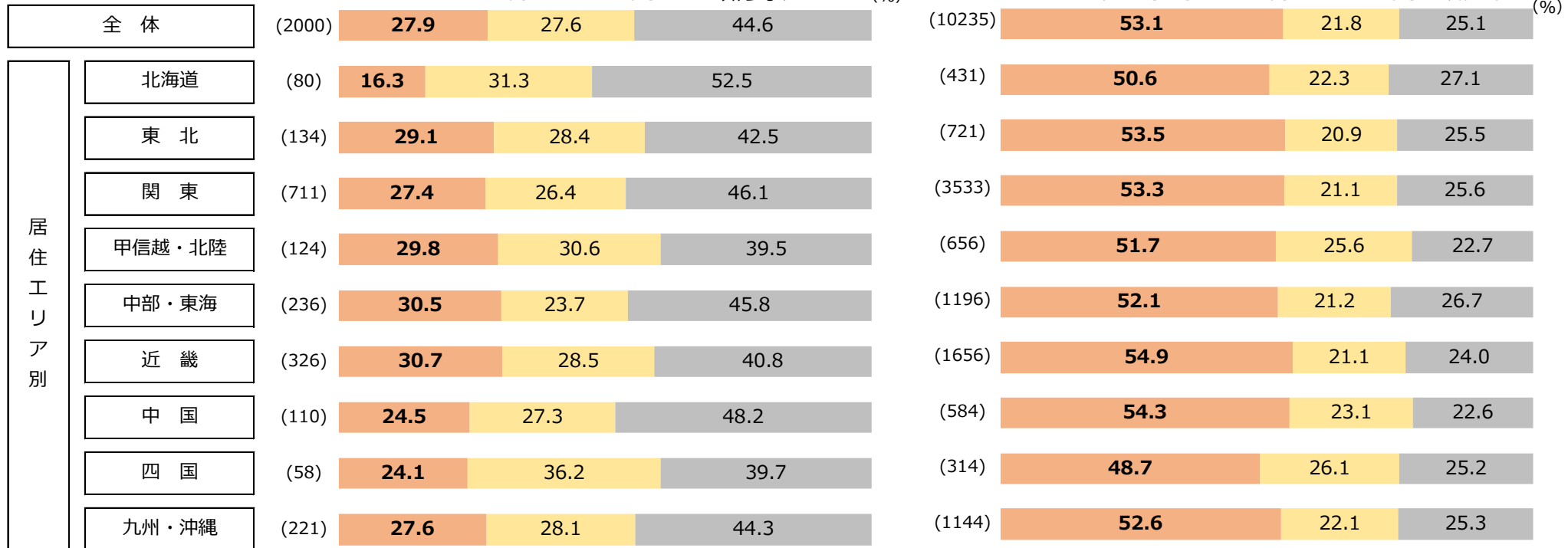
「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことの認知 【居住エリア別：平成27年度との比較】

■ 居住エリア別の認知度（知っている）は、平成27年度と比較すると、全てのエリアで大きく低下した。

Q20. あなたは、2013年に「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをご存じでしたか。

【令和元年度】

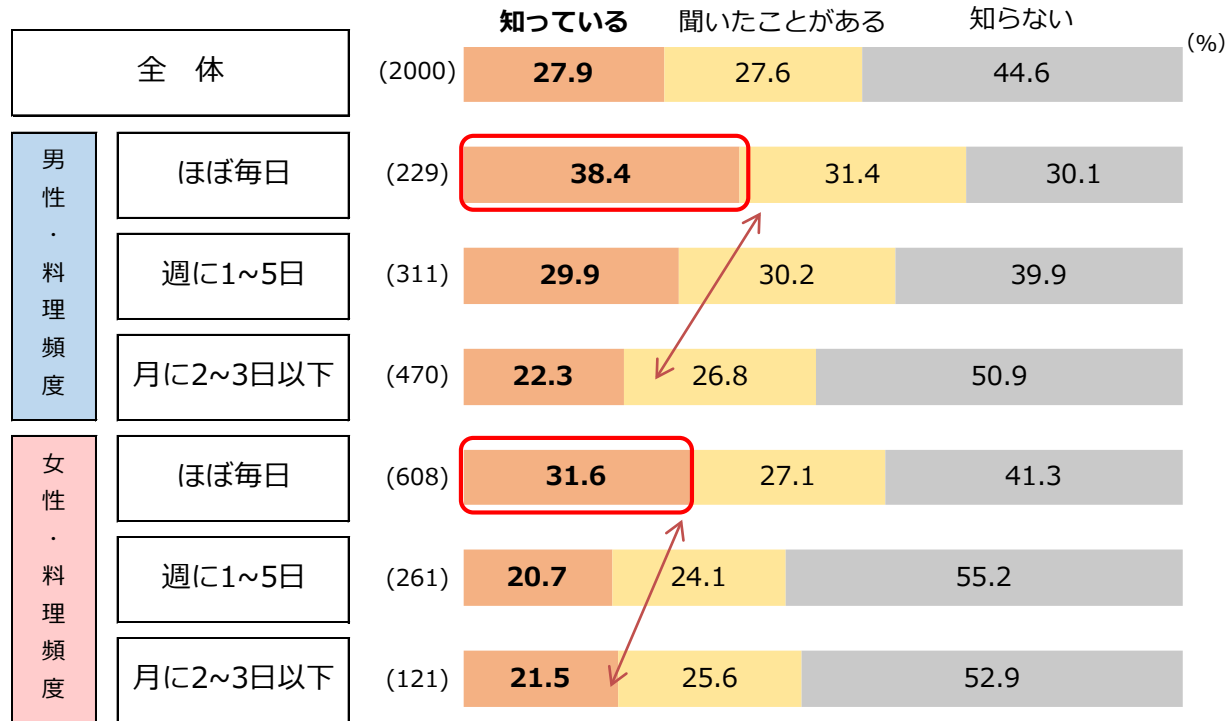
【平成27年度】



「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことの認知 【性別・料理頻度別】

- 『和食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されたこと』は、男女ともに料理頻度が高いほど認知度は高く、女性よりも男性の方がよりその傾向が見られた。

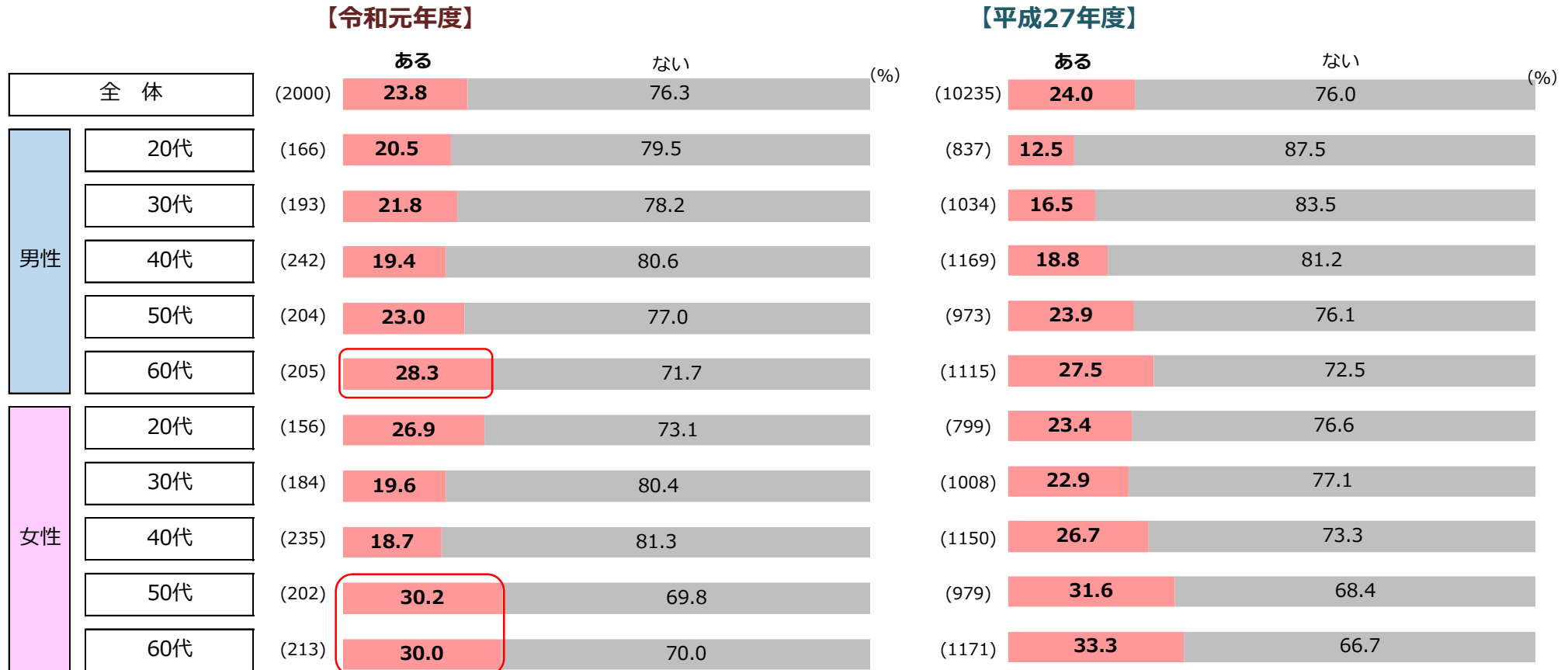
Q20. あなたは、2013年に「和食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをご存じでしたか。



外国の方に紹介したい「和食文化」の有無 【性別・年代別：平成27年度との比較】

- 「外国の方に紹介したい和食文化がある」は、男性は60代で、女性は50代と60代で他の年代よりもやや高かった。
- 平成27年度と比較すると、男性20代で「外国の方に紹介したい和食文化がある」はやや高まった。

Q21. あなたは、外国の方に紹介したい「和食文化」がありますか。
また、紹介したい「和食文化」がある方は、その内容を具体的にお答えください。



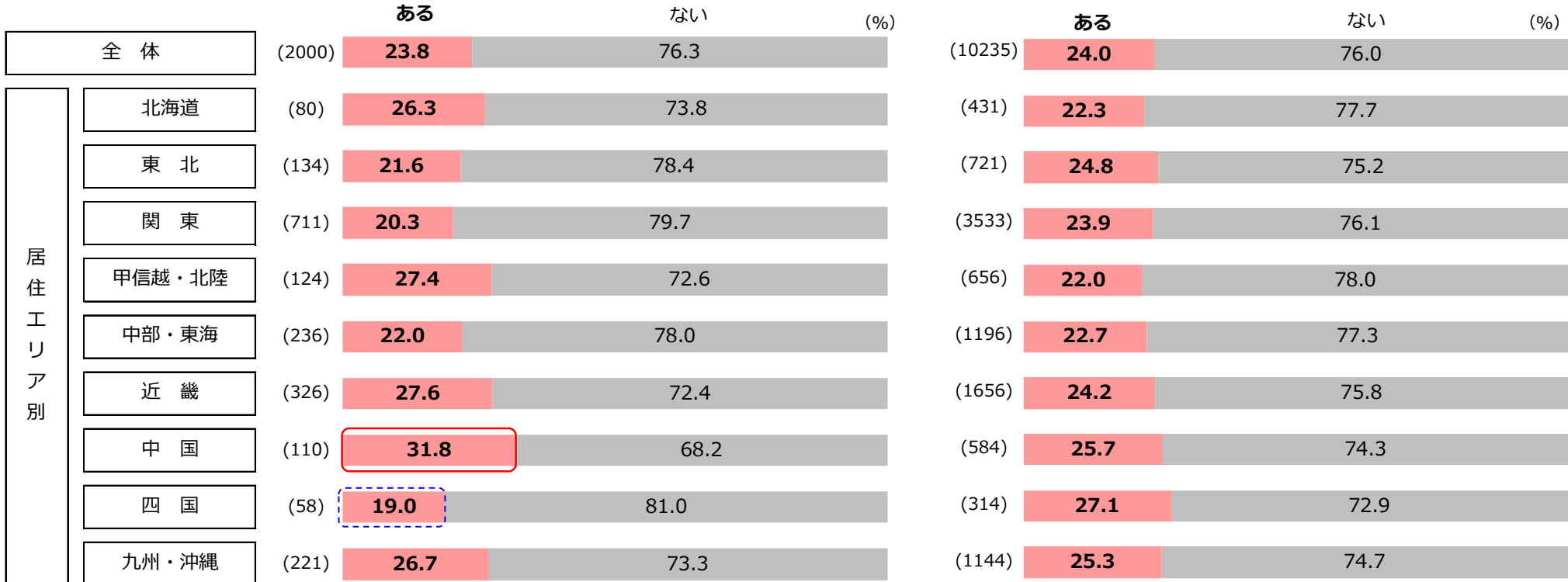
外国の方に紹介したい「和食文化」の有無 【居住エリア別：平成27年度との比較】

- 「外国の方に紹介したい和食文化がある」は、『中国』で他のエリアよりもやや高かった。
- 平成27年度との比較では、『四国』で「外国の方に紹介したい和食文化がある」が低下した。

Q21. あなたは、外国の方に紹介したい「和食文化」がありますか。
また、紹介したい「和食文化」がある方は、その内容を具体的にお答えください。

【令和元年度】

【平成27年度】

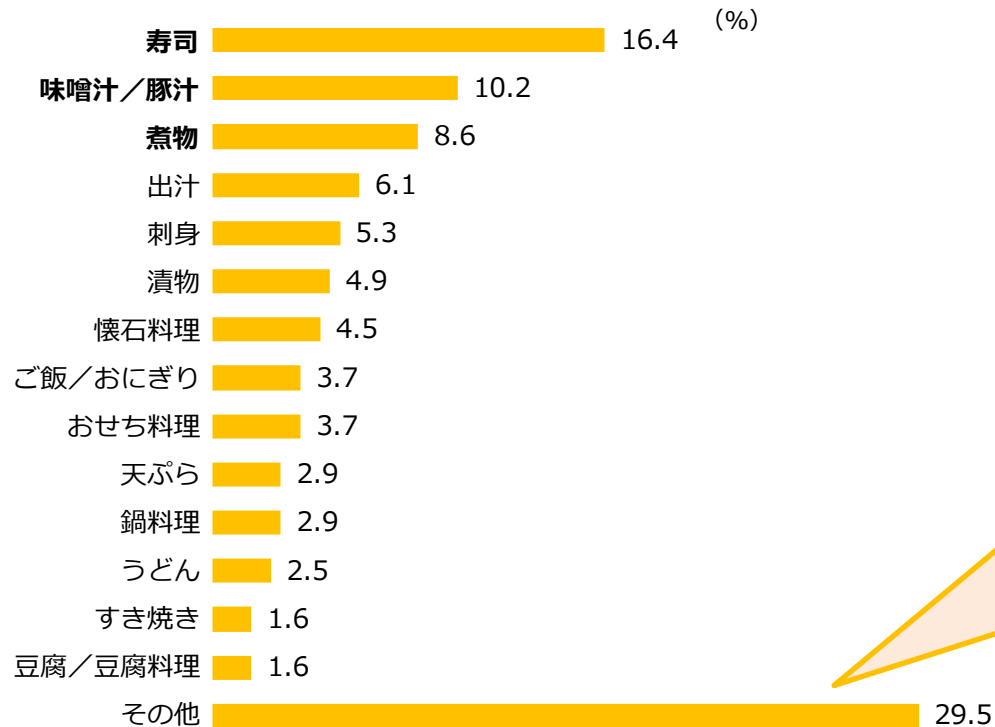


外国の方に紹介したい「和食文化」 自由回答のまとめ 【具体的な内容の回答者】

- 外国の方に紹介したい「和食文化」は様々な回答が得られたが、まとめると「寿司」が最も多く、次いで「味噌汁／豚汁」、「煮物」、「出汁」、「刺身」が上位5つであった。
- 「その他」でまとめた具体的な内容は、「田舎の伝統料理」、「四季折々をいかした料理」、「もちの色々な食べ方」、「出汁巻き卵」、「旬の山菜を使った料理」、「みそなどの発酵食品」などがあがった。

Q21. あなたは、外国の方に紹介したい「和食文化」がありますか。
また、紹介したい「和食文化」がある方は、その内容を具体的にお答えください。

外国の方に紹介したい和食文化があると回答し、
具体的な内容の回答者
(n=244名)



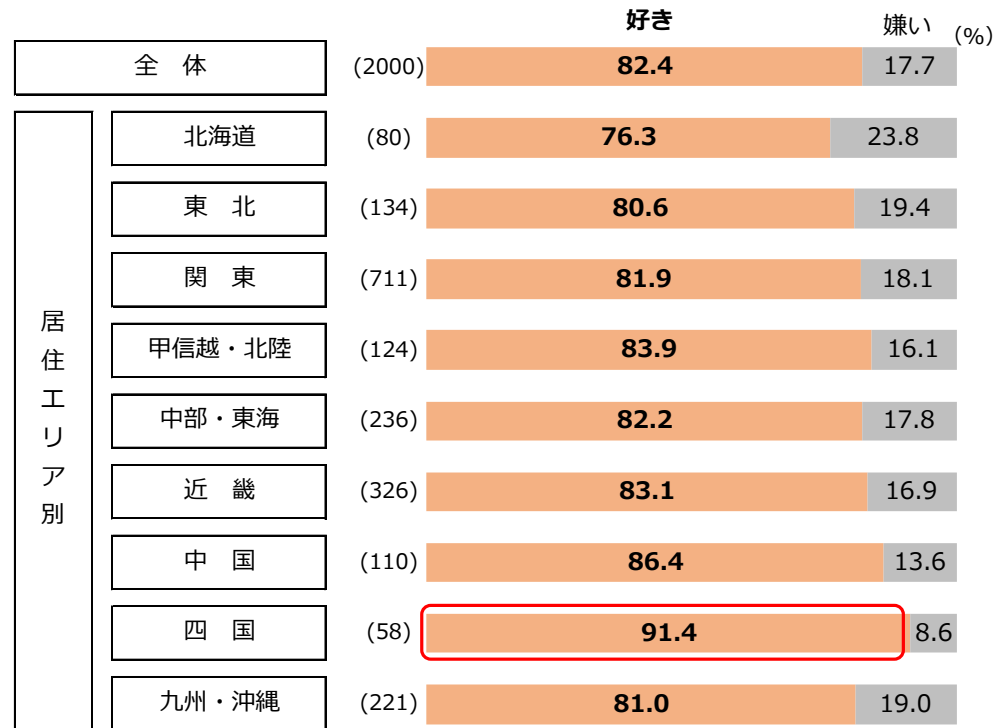
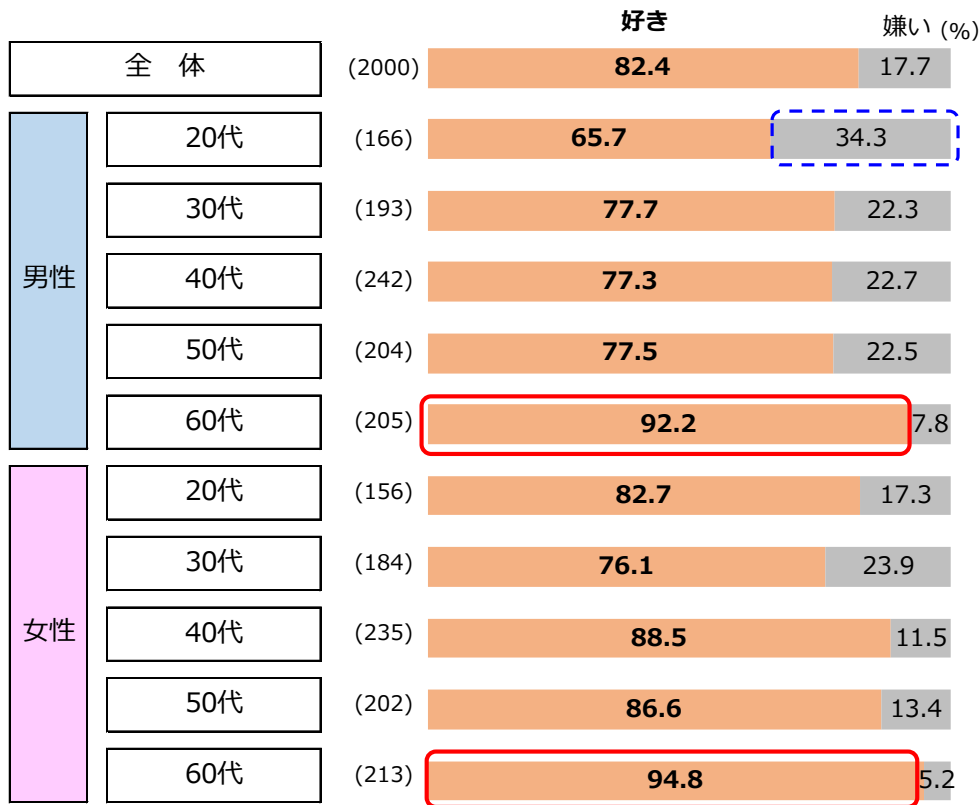
その他回答の抜粋

- ・ 田舎の伝統料理
- ・ 四季折々をいかした料理
- ・ もちの色々な食べ方
- ・ 出汁巻き卵
- ・ 旬の山菜を使った料理
- ・ みそなどの発酵食品
- ・ 茶碗蒸し
- ・ 常備菜
- ・ 和菓子

和食に対する好意 【性別・年代別／居住エリア別】

- 男女とも高い年代ほど「和食が好き」は多く、男女とも60代では9割以上であった。男性20代は「和食が嫌い」が3割以上と最も多かった。
- 居住エリアには大きな差はなかったが、『四国』で「和食好き」がやや多かった。

Q23. あなたは、和食が好きですか。
和食が好きな方は、好きな和食を具体的にお答えください。



好きな和食 自由回答のまとめ 【具体的な内容の回答者】

■ 和食を好きと回答した対象者の具体的な内容は、「煮物」、「寿司」、「味噌汁／豚汁」がTop3であった。

Q23. あなたは、和食が好きですか。
和食が好きな方は、好きな和食を具体的にお答えください。

「和食」が好きと回答し、
具体的な内容の回答者
(n=416名)

